

自分のテーマを決めよう！

増補「比較文化のコンセプト&参考文献」について

大学4年間で何をどのように学ぶか？ 授業やゼミで与えられた課題をこなすだけでなく、大学のさまざまな資源（図書館をはじめとする人的・物的財産）を活用して「私のテーマ」を決め、4年間それを探究すれば貴重な経験と知識を得ることができるはずだ。それは将来の君の進路にもきっと役立つことだろう。そのように考えてこの「比較文化のコンセプト&参考文献」は作成された。

ここには70のテーマが挙げられている。「食の比較」「森林」「観光」といった身近なものから、「音と雑音」「身ぶり」「カーニバルと祝祭」といった、ちょっとわかりにくいテーマも並んでいる。人間にとって大切なモノや行為や自然現象には、時代や地域を超えたさまざまな謎がひそみ、地域の違いや共通性も現れている。「比較文化のコンセプト」は、その「意味」を探るために似たもの同士を比較し考えるための素材を提供する。ここに並ぶテーマはさまざまな学問分野の境界線上に位置するものが多い。この境界（学際）領域にこそ文化の魅力的なテーマが存在する。掲げられた本や文献を見れば、多くの先人がそのテーマにさまざまな角度から取り組んできたことがわかるだろう。

自分のテーマを決めることはそう簡単ではない。インターネットや図書館の検索を使ってテーマになりそうな言葉を入力すれば、たちどころに関連データが表れるが、さてそれらの内のどれを読めばいいのか戸惑うことも多い。その点、この文献案内は札大の（旧）文化学部創立者で本のエキスパートである山口昌男・高橋康雄両先生が選んだ基本文献なので安心だ。気になるタイトルを選び、片っ端から読んでみてほしい。新しい窓がきっと開かれるだろう。1年生からこれを始めれば、ゼミ選びや卒業論文に結びつくこと間違いなし。

増補 比較文化のコンセプト & 参考文献

1. 食の比較 (洋食・和食・ 田舎料理)

山口昌男「食・祝祭・文学」『國文學』1984年3月号、學燈社／ブリーヤ＝サヴァラン『美味礼讃』岩波文庫／ロラン・バルト『味覚の生理学』を読む』みすず書房／ポール・フィールドハウス『食と栄養の文化人類学』中央法規／『イマゴ』—食の心理学—1993年9月、青土社／『現代思想』—料理 食のエステティーク—1988年9月、青土社／『國文學』—食の文学博物誌—1984年3月号、學燈社／中野美代子『カーニバリズム論』福武文庫／石毛直道『食卓の文化史』岩波書店／『日本の食生活全集』農山漁村文化協会／『祝いの食文化』東京美術選書／スティーブン・メネル『食卓の歴史』中央公論社／『is』—食—第14号、ポーラ文化研究所／渡辺実『日本食生活史』吉川弘文館／小泉武夫『食に知恵あり』日本経済新聞社／長崎福三『肉食と文化と魚食文化』農文協／芳賀登・石川寛子編『全集 日本の食文化』全十四巻、雄山閣／成瀬宇平『現代魚食考』丸善ライブラリー／大場滋『食の文化史』中公新書／三宅眞『世界の魚食文化考』中公新書／柳田国男『食物と心臓』講談社学術文庫／鯖田豊之『肉食の思想』中公新書／『is』—食卓のメタファー—28号、ポーラ文化研究所／黄慧性・石毛直道『韓国の食』平凡社／石毛直道『論集 東アジアの食事文化』平凡社／山口米子『日本の東西「食」気質』三嶺書房／石毛直道『食事の文明論』中公新書／児玉定子『日本の食事様式』中公新書／近藤弘『日本人の求めたうま味』中公新書／石毛直道『食いしん坊の民族学』中公文庫／原田信男『歴史のなかの米と肉』平凡社／一島英治『万葉集にみる食の文化』裳華房／安達巖『日本食物文化の起源』自由国民社／金両基『キムチとお新香—日韓比較文化』河出書房新社／石毛直道編『世界の食事文化』ドメス出版／同氏他編『ロスアンジェルスのレストラン—その文化人類学的研究』ドメス出版／鄭大聲『食文化の中の日本と韓国』講談社現代新書／マーヴィン・ハリス『食と文化の謎—Good to eatの人類学』岩波書店／山内昶『「食」の歴史 比較文化論の地平』人文書院／佐々木道雄『朝鮮の食と文化』むくげ叢書／バーバラ・ウィートン『味覚の歴史 フランスの食文化—中世から革命まで—』大修館書店／周達生『中国の食文化』創元社／同『東アジアの食文化探検』三省堂選書／柳田國男『食物の個人自由』『明治大正史 世相篇』東洋文庫／森枝卓士『食べもの記』福音館書店／鈴木晋一『たべもの嘶』平凡社／辺見庸『もの食う人びと』角川文庫／森枝卓士『食べてはいけない!』白水社

2. 観光文化の 起源

神崎宣武『物見遊山と日本人』講談社現代新書／中川浩一『観光の文化史』筑摩書房／ジョン・アーリ『観光のまなざし』法政大学出版局／内藤錦樹『大衆旅行時代』日経新書／山下晋司編『観光人類学』新曜社／

水野潤一『観光学原論』東海大学出版会／川本三郎編『観光と乗物 モダン都市文学Ⅴ』平凡社／ピアーズ・ブレンドン『トマス・クック物語—近代ツーリズムの創始者』中央公論社／本城靖久『トマス・クックの旅 近代ツーリズムの誕生』講談社現代新書／荒井政治『レジャーの社会経済史』東洋経済新報社／石森秀一他編『新しい旅の始まり』PHP研究所／同『新しい観光学の提唱』〔『中央公論』1992年7月号〕／V・L・スミス編『観光・リゾート開発の人類学』勁草書房／『太陽—日本聖地観光—1994年1月号、平凡社／『北見大学論集』第37号、1997年／ピエロ・カンボレージ『風景の誕生』筑摩書房／大室幹雄『月瀬幻影』中公叢書／旅の文化研究所編『旅と観光の年表』河出書房新社／宇波彰『旅に出て世界を考える』論創社／沢木耕太郎『旅する力 深夜特急ノート』新潮社／角田光代『いつも旅のなか』アクセス・パブリッシング／多和田葉子『旅する裸の目』講談社

3. 道の比較

シュライバー『道の文化史 一つの交響曲』岩波書店／東京大大学公開講座『道』東京大学出版会／『is』—道—第14号、ポーラ文化研究所／藤原武『ローマの道の物語』原書房／播磨荘一郎『日本の道 世界の道』毎日新聞社／北海道新聞社編『北海道道路53話』北海道新聞社／鶴見良行・村井吉敬編著『道のアジア史—モノ・ヒト・文化の交流』同文館／加藤宣利『白い道—高速道路物語』ぎょうせい／遠山富太郎『杉のきた道』中公新書／深田久弥『シルクロードの旅』朝日選書／岸井良衛『山陽道』中公新書／岸井良衛『東海道五十三次』同／藤原新也編『日本の名随筆90 道』作品社／司馬遼太郎『街道をゆく』1～40、朝日文庫／『日本再発見』1～2—道—NEC／富岡儀八『日本の塩道』古今書院／同『塩の道を探る』岩波新書／石黒寛『もう一つのシルクロード』東海大学出版会／陳良『シルクロード史話』恒文社／陳舜臣『シルクロードの旅』平凡社／同『シルクロード巡歴』日本放送出版協会／ジャン＝ピエール・ルゲ『中世の道』白水社／深田久弥・長澤和俊『シルクロード』白水社／長澤和俊『シルクロード文化史』全3巻、白水社／『シルクロード 絲綢之路』1～6、日本放送出版協会／『シルクロード ローマへの道』7～12、同／高村直助編『道と川の近代』山川出版／マクラーハン『メディア論』みすず書房／松岡正剛『花鳥風月の科学』淡交社／大洋和俊『旅・道・寺社—枕草子の〈言葉〉』〔『物語とメディア新 物語研究1』有精堂〕／鶴見良行『海道の世界史』朝日選書／鳴海邦碩『都市の自由空間—道の生活史から』中公新書／相良亨『日本の『道』』〔『文学』1987年8月号、岩波書店〕／國分直一『北の道 南の道 日本文化と海上の道』第一書房／廣川勝美他『塩の道』創世記／戸田芳実『歴史と古道 歩いて学ぶ中世史』人文書院／平島裕正『塩の道』講談社現代新書／山田宗睦『中仙道—謡坂・舞台峠・御殿山』〔『文学』1986年12月号、岩波書店〕／宮本常一『塩の道』〔『日本民衆2 山に生きる人びと』未来社〕／戸田芳実『歴史と古道 歩いて学ぶ中世史』人文書院／小関和弘『鉄道の世界』日本経済評論社

4. 旅の比較 (成人式の旅・ ワンダリング)

山口昌男・中村雄二郎『**知の旅への誘い**』岩波新書／エリック・リード『**旅の思想史**』法政大学出版局／シヴェルプシユ『**鉄道旅行の歴史**』法政大学出版局／オーラー『**中世の旅**』法政大学出版局／『日本の美学』一旅—創刊号、ペリかん社／『**伝統と現代**』一旅—11号、伝統と現代社／『**日本交通公社七十年史**』／古橋信孝他編『**旅と異郷**』古代文学講座5』勉誠社／宮本常一編著『**旅の発見** 旅の民俗と歴史3』八坂書房／和歌森太郎『**日本人の旅**』〔『和歌森太郎著作集14』弘文堂〕／神崎宣武『**観光民俗学への旅**』河出書房新社／山本明『**戦後旅行史**』、佐藤典子他『**修学旅行の変遷**』〔『風俗社会学』世界思想社〕／『**國文學**』一旅 その心と表現—1973年7月号、學燈社／『**國文學**』一旅の発見 異国のなかの日本人—1980年6月号、同／『**ユリイカ**』一旅行のフォークロア—1987年8月号、青土社／B・モーラン「**現代のロマン—マイプラン・トラベル**」〔『日本文化の記号学』東信堂〕／『**現代思想**』一漂泊と交通—1984年11月号、青土社／『**大航海**』一旅の歴史、大研究—No 4、新書館／高田公理「**旅行文化の発展—人類史的視点から—**」〔井上俊編『**現代文化を学ぶ**』世界思想社〕／本城靖久『**グランド・ツアー—良き時代の良き旅**』中央公論社／石森秀三「**旅から旅へ**」〔『現代日本文化における伝統と変容6』ドメス出版〕／柳田国男「**旅行の話**」〔『定本柳田國男集』三、筑摩書房〕／プルチョウ「**旅の時空**」〔『日本の文学』3〕／『**文学**』一旅の文学—1937年8月号、岩波書店／板坂耀子『**江戸の旅と文学**』ペリかん社／佐藤泰正編『**文学における旅**』笠間選書／『ちくま文学の森13 旅ゆけば物語』筑摩書房／石森秀三編『**二〇世紀における諸民族文化の伝統と変容3 観光の二〇世紀**』ドメス出版／『**言語生活**』—海外への旅—1980年8月号、筑摩書房／『**大宅壮一文庫雑誌記事索引総目録 件名編 4**』／桜井徳太郎・北見俊夫『**日本の民俗 4 人間の交流**』河出書房新社／篠原徹『**男はつらいよ** 寅次郎の旅の人生—漂泊と定住の民俗学的断章—」〔新谷尚紀『**寅さんの民俗学**』海鳴社〕／今福龍太『**移動溶液**』新書館／家島彦一『**イブン・パットウータの世界大旅行**』平凡社

5. ホテル・ 宿の比較

宮本常一『**にっぽんのやど**』社会思想社／廣瀬昭三「**ホテルの変遷と二一世紀のホテル**」〔生活文化研究所編著『**遊びと日本人**』啓文社〕／宮本常一編著『**日本の宿** 旅の民俗と歴史1』八坂書房／白田昭『**インイギリスの宿屋のはなし**』駸々堂出版株式会社／村岡寅『**日本のホテル小史**』中公新書／鈴木幸雄『**ホテル大好き!!**』泰流社／森敦編『**日本の名随筆67 宿**』作品社／長谷川嘉彦『**ホテルを楽しむ本**』同文館／三富克彦『**ホテルマン日記**』KK ベストブック／瀬沼克彰「**宿泊施設への人々の要望**」〔『余暇と地域文化創造』学文社〕／『**太陽**』—新感覚ホテル案内—1990年6月号、平凡社／『**太陽**』—ホテルを楽しもう—1982年4月号、同／疋田正博「**ホテルの文化史**」〔『現代日本文化における伝統と変容4 都市のフォークロア』ドメス出版〕／ラウ・ハイゼ『**亭主—酒場と旅館の文化史**』白水社／『**大宅壮一文庫雑誌記事索引総目録 件名編 4**』／網野善彦『**節経節の世界 中世社会の変化**』〔『海と列島の中世』

6. 川と川辺の比較

(折口信夫「水の女」・川口と遊女)

折口信夫「水の女」〔『折口信夫全集 2』中公文庫〕／鎌田東二「水の作法・水の祭祀」〔『異界のフォノロジー』河出書房新社〕／宮本常一編著『川の道 旅の民俗と歴史7』八坂書房／『世界の伝説8 川』ぎょうせい／柳田国男「川」〔『定本柳田国男集』2 筑摩書房〕／若尾五雄「トドロキ川」〔『河童の荒魂』塙屋図書〕／加藤迪『都市が滅ぼした川』中公新書／森誠一『トゲウオのいる川』中公新書／富山和子『川は生きている』講談社／小出博『日本の河川 自然史と社会史』東京大学出版会／久保田淳『隅田川の文学』岩波新書／夢枕漢他『川からの贈り物』東京書籍／良知力『青きドナウの乱痴気』平凡社／高村直助編『道と川の近代』山川出版／安芸皎一『世界の川に想う 世界の河川』古今書院／猿谷要『ミシシッピ川紀行』文藝春秋／鱗田豊之『ラインの文化史』刀水書房／岩井宏實「大和川をめぐる地域文化」他〔『国立歴史民俗博物館研究報告』第67集〕／櫻井満『古代の山河と伝承』おうふう／安藤徹「橋・峠・川・水—空間を繋ぐ—」〔『物語とメディア 新 物語研究 1』有精堂〕／『日本の自然3 日本の川』岩波書店／★『地球・自然環境の全情報』紀伊國屋書店を参照／畠中武文『河川と人間』古今書院／梅原猛他『未来の川のほとりにて 吉野川メッセージ』山と溪谷社／梅原猛他『川の思想』同／阿部謹也他『中世の風景』上、中公新書／井上鋭夫『山の民・川の民』平凡社選書／北見俊一『川の文化』日本書籍／笹本駿二『ローヌ河歴史紀行』岩波新書／同『ライン河物語』同／吾郷慶一『ライン河紀行』同／加藤雅彦『ドナウ河紀行』同／ユゴー『ライン河幻想紀行』岩波文庫／ガヴィン・ウェイトマン『テムズ河物語』東洋書林

7. 笑いの比較

山口昌男「笑いの人類学」〔『仕掛けとしての文化』青土社〕／同「笑いのルーツ」〔『気配の時代』筑摩書房〕／同「笑いについて」〔『笑いと逸脱』筑摩書房〕／対談・山口昌男 vs 養老孟司「人はなぜ笑うのか？」〔『imago』—特集・笑い—1995年3月、青土社〕／山口昌男「硬直した知の武装解除の方法」、対談・山口昌男 vs 荻野アンナ「反構造としての笑い」〔『反構造としての笑い』NTT出版〕／山口昌男「『笑いの記号学』紀行」〔『へるめす』1987年13号、岩波書店〕／中川米造「日本人の笑い」〔生活文化研究所編著『遊びと日本人』啓文社〕／『日本の美学』—笑い—第20号、ペリかん社／ベルクソン『笑い』岩波文庫／織田正吉『笑いとユーモア』ちくま文庫／塚崎進『笑いの誕生』社会思想社／井上宏『笑いの人間関係』講談社現代新書／西村清和・松枝到『笑う人間/笑いの現在』ポーラ文化研究所／シャルル・モーロン『喜劇のブシコクリティックス』国文社／飯島吉晴『笑いとは異装』海鳴社／柳田国男「笑の本願」「笑の文学の起源」〔『定本柳田国男集』7、筑摩書房〕／飯沢匡『コメディの復讐』青土社／扇田昭彦『世界は喜劇に傾斜する』沖積社／山藤章二『対談「笑い」の混沌』講談社／同『対談「笑

い』の構造』同／同『対談「笑い」の解体』同／桂米朝編『日本の名随筆22 笑』作品社／原岡文子「笑う—『源氏物語』の『人笑へ』をめぐる—」〔『物語とメディア 新 物語研究1』有精堂〕／『明治大学公開講座V 笑い』風間書房／長谷川竜生「泣きと笑いを支えるもの」〔『文学』1960年12月号、岩波書店〕／足立巻一「大阪道化の笑い」〔前出同〕／『文学』—今日の笑い—1958年1月号、岩波書店／『文学』—笑い—1953年8月号、同／『文学』—笑の文学—1938年8月号、同／『新・ちくま文学の森13 世界は笑う』筑摩書房／ジャン・デュヴ・ニョー『笑いのたくらみ』東海大学出版会／『言語生活』—笑い—1979年1月号、筑摩書房／足立和浩「笑い論のためのメモランダム」〔『現代思想』1984年2月号～1985年7月号、青土社〕／『言語生活』—落語—1982年12月号、筑摩書房／亀井勝一郎・臼井吉見編『人生の本7 ユーモアのすすめ』文藝春秋／正高信男「笑いと人間」〔『岩波講座文化人類学1 新たな人間の発見』岩波書店〕／中村雅昭『落語の言語学』平凡社選書／同『落語のレトリック』同／イーニッド・ウェルズ・フォード『道化』晶文社／夏目房之介「笑いの作法」〔『情報文化問題集』NTT 出版〕／松枝到編『ユーモアと笑いの至福 東洋文庫ふしぎの国7』平凡社★この一冊の巻末の自社広告に各種笑い話の原典が載っている／林達夫「上品な笑い 健康な笑い」〔『林達夫著作集6』平凡社〕／レナード・ファインバーグ『ユーモアの秘密』文化書房博文社／『本田安次著作集10』錦正社／祖父江孝男「エスキモーの笑い〈人間関係の考察〉」〔梅棹忠夫編『民族学の旅』講談社〕／鶴見俊輔『アメノウズメ伝 神話からのびてくる道』平凡社／宮田光雄『キリスト教と笑い』岩波新書／梅原猛『笑いの構造』角川選書／『知っているつもり?! 6 笑いに生きた達人たち』日本テレビ／タルモ・クンナス『笑うニーチェ』白水社／阿部嘉昭『松本人志ショー』河出書房新社

8. 音と雑音 (人工音と 自然音)

山口昌男「音と新しい都市文化」〔『へるめす』1987年10号、岩波書店〕／同『音の想像力』〔『自然と文明の想像力』宝島社〕／同『記号と境界』〔『文化と両義性』岩波書店〕／『日本の美学』—音—第3号、ペリかん社／佐野清彦『音の文化誌—東西比較文化考』雄山閣／中川真『平安京音の宇宙』平凡社／スティーブン・フェルド『鳥になった少年』平凡社／村山貞也『人はなぜ音にこだわるか』KK ベストセラー／東靖晋『境界の音楽界の喧騒』〔『えとのす』第32号、新日本教育図書〕／山田野理夫『日本音紀行—その民俗学—』朝文社／秋田昌美『ノイズ・ウォー』青弓社／『is』—音—ポーラ文化研究所／『現代思想』—都市のグラマトロジー—1975年10月号、青土社／吉村弘「都市と音」〔櫻井哲男編『二〇世紀における諸民族文化の伝統と変容1』ドメス出版〕／ジャック・アタリ『ノイズ 音楽／貨幣／雑音』みすず書房／武満徹『音、沈黙と測りあえるほどに』新潮社／『ジョン・ケージ 小鳥たちのために』青土社／シェーファー『世界の調律』平凡社／『日本の音』コロナ・ブックス／今福龍太『レヴィ・ストロース 夜と音楽』みすず書房／フルト

ヴェングラー『音と言葉』新潮文庫／T・G・ゲオルギアードス『音楽と言語』講談社学術文庫

9. 木と文化

橋本鉄男『木地屋の民俗』岩崎美術社／須藤護『暮らしの中の木器』ぎょうせい／フレイザー『金枝篇』1) 2) 岩波文庫／橋本鉄男『ろくろ』法政大学出版局／札幌学院大学人文学部編『北海道・森と木の文化』札幌学院大学／荒俣宏『木精狩り』文藝春秋／永瀬嘉平『百木巡礼 巨樹に魅せられて』佼成出版社／同『神の木と会う』神無書房／林以一『木を読む』小学館／読売新聞社編『新 日本名木100選』読売新聞社／岸本定吉『炭の神秘』DHC／高嶋雄三郎『松』法政大学出版局／筒井廸夫『山と木と日本人』朝日新聞社／同『木と森の文化史』同／『明石の木と森』地球社／北海道編『北海道山林史』北海道／満久崇磨『木のはなし』思文閣出版／同『続木のはなし』同／室田武『雑木林の経済学』樹心社／岩井宏實他『民具が語る日本文化』河出書房新社／若尾五雄『河童と木地屋』〔『河童と荒魂』堺屋図書〕／全国燃料会館編『木炭の文化史』東出版／同『日本木炭史』全国燃料会館／炭やきの会『環境を守る炭と木酢液』家の光協会／小原二郎『日本人と木の文化』朝日選書／中尾佐助『花と木の文化史』岩波新書／榎本冬一郎『木の国民俗考』本阿弥書店／橋本鉄男『漂泊の山民 木地屋の世界』白水社／渡辺弘之『樹木がはぐくんだ食文化』研成社／ジャック・ブスー・マサビュオー『家屋と日本文化』平凡社／篠原徹『海と山の民俗自然誌』吉川弘文館／有岡利幸『松—日本人の心と風景』人文書院／『太陽—木の文化—1984年4月号、平凡社／大山昭子『木切れと遊ぶ』〔『遊びと日本人』啓文社〕／稲本正『木の聲』小学館／石村真一『桶・樽』I～III、法政大学出版局／『地球・自然環境の本全情報』紀伊國屋書店を参照／柳田国男『神樹篇』〔『定本柳田國男集』11、筑摩書房〕／樋口清之『木炭』法政大学出版局／大河直躬『番匠』同／西岡常一『木のいのち木のこころ 天』草思社／同『法隆寺を支えた木』NHK ブックス／同『木に学べ 法隆寺・薬師寺の美』小学館／廣川勝美『身体と樹木の宇宙誌』〔『文学』1988年2月号、岩波書店〕／『岩波美術館 木と草花』岩波書店／小川三夫『木のいのち木のこころ 地』草思社／塩野米松『木のいのち木のこころ 人』同／伊達興治『北海道の樹木と民族』北海道出版企画センター／善本知孝『木のはなし』大月書房／宮本常一『日本民衆史2 山に生きる人びと』未来社／瀬田勝哉『木の語る中世』朝日選書

10. 文字と文化

マクルーハン『ゲーテンベルグの銀河系』みすず書房／同『メディア論』同／『現代思想—文字と共同体—1993年10月号、青土社／オング』藤原書店／グディ『未開と文化』岩波現代選書／阿辻哲次『漢字の文化史』NHK ブックス／白川静『文字遊心』平凡社／同『文字逍遙』同／紀田順一郎『日本語大博物館』ジャストシステム／同『日本語発掘図鑑』同／ホグベン『コミュニケーションの歴史』岩波文庫／上田正昭編『日本古代文化の探究 文字』社会思想

社／岸俊男編『日本の古代14 ことばと文字』中央公論社／アルベルト・ティーン・ガウアー『文字の歴史—起源から現代まで』原書房／加藤一郎『象形文字入門』中公新書／杉勇『楔形文字入門』同／西田龍雄『生きている象形文字』同／川田順造『無文字社会の歴史』岩波書店同時代ライブラリー／ムーアハウス『文字の歴史』岩波新書／白川静『漢字生い立ちとその背景』同／藤堂明保『漢字の話』上・下、朝日選書／樺島忠夫『日本の文字』岩波新書／藤枝見『文字の文化史』岩波書店同時代ライブラリー／ジョルジュ・ジャン『文字の歴史』創元社／『ichiko』—文字の文化—1988年 No. 9／杉浦康平・前田愛『イメージと文字』『別冊国文学 知識の最前線 情報のパラダイム』1960年、学燈社／関根賢司『文字・写本・書物—あるいは伊勢物語のエクリチュール—』『物語とメディア 新 物語研究 1』有精堂／中村雄祐『文字という文化』『岩波講座文化人類学第10巻 神話とメディア』岩波書店／樺島忠夫他編『事典 日本の文字』大修館書店／矢島文夫『文字学のたのしみ』同／西田龍雄『西夏文字の話』同／前田富祺編『国語文字史の研究』1、2、和泉書院／樺島忠夫他編『事典 日本の文字』大修館書店／『言語生活』—文字の科学—1985年7月号、筑摩書房／『言語生活』—幼児が文字を知ったとき—1971年3月号、同／『言語生活』—文字の形—1974年5月号、同／『言語生活』—古代日本人と文字—1976年1月号、同／矢島文夫『解説—古代文字への挑戦』朝日新聞社／『ポボル・ウフ』中公文庫／西田龍雄編『世界の文字 講座言語 5』大修館書店／阿辻哲次『図説漢字の歴史』大修館書店／『東京大学コレクション III 歴史の文字—記載・活字・活版』東京大学総合研究博物館／竹村真一『明朝体の歴史』思文閣出版／矢作勝美『活字=表現・記録・伝達』出版ニュース社／高橋康雄『メディアの曙』日本経済新聞社／大輪盛登『グーテンベルクの髯』筑摩書房／コリン・レンフルー『ことばの考古学』青土社／河野六郎・西田龍雄『文字最眞』三省堂／河野六郎『文字論』同／梅棹忠夫・小川了編『ことばの比較文学』福武書店／クリストファー・ウォーカー『楔形文字』学藝書林／中西進・山本七平編『漢字文化を考える』大修館書店／高津春繁・関根正雄『古代文字の解説』岩波書店／チャドウィック『線文字Bの解説』みすず書房／トープルホーファー『失われた文字の解説』I~III、山本書店／ステファヌ・ロッシニ『古代エジプト文字入門』河出書房新社／コンドラートフ『文字学の現在』筑摩書房／中西亮『世界の文字』みずうみ書房／山田俊雄他『シンポジウム日本語 4 日本語の文字』学生社／橋本進吉『文字及び仮名遣の研究』岩波書店／佐藤喜代治編『漢字講座』全12巻、明治書院／光田由里『高松次郎 言葉ともの 日本の現代美術1962-72』水声社

11. 飾り

『日本の美学』—かざり—1992年18号、ベリかん社／『日本の美学』—デザイン—14号、同／千宗室監修『床と床かざり』淡交社／『日本の美術 1 装身具』至文堂／『日本の美術 29 文様』同／沼田頼輔『紋章の研究』創元社／海野弘『部屋の宇宙誌—インテリアの旅』TBSブリタニ

カ／清家清監修『インテリアデザイン辞典』朝倉書店／原研哉『ポスターを盗んでください』新潮社／田中一光『デザインの仕事机から』白水社／同『デザインの周辺』同／同『田中一光デザインの世界』講談社／海野弘『世紀末の街角』中公新書／同『アール・デコの時代』美術公論社／小野二郎『紅茶を受皿で』晶文社／同『ウィリアム・モリス』中公新書／『ユリイカ』—アール・デコ—1984年12月、青土社／『アール・ヌーボー／アール・デコ』1～4集、読売新聞社／海野弘『現代デザイン「デザインの世紀」をよむ』新曜社／『日本の美術23 結髪と髪飾』至文堂／ケレーニ『迷宮と神話』弘文堂／廣瀬辰五郎『日本結髪278種』主婦と生活社／岡登貞治編『原始文様図鑑』東京堂出版／同『世界文様図鑑』同／同『文様の事典』同／亀倉雄策『デザイン随想離陸 着陸』美術出版社／『芸術新潮』—アクセサリーの冒険—1977年6月号、新潮社／『日本の文様』1～30、光琳社／立田洋司『唐草文様 世界を駆けめぐる意匠』講談社選書メチエ／海野弘『裝飾空間論』美術出版社／折口信夫「髻籠の話」〔折口信夫全集第二巻』中公文庫〕／末沢明子「住居・隔てもの・調度—源氏物語における飾りと隔て—」〔『物語とメディア 新 物語研究1』有精堂〕／大丸弘「着る飾るをめぐる二〇歳の虚像」〔井上忠司編『現代日本文化における伝統と変容4 都市のフォークロア』ドメス出版〕／『江馬務著作集』4、中央公論社／国分直一「身体裝飾と民俗」〔『日本民俗文化大系10』小学館〕／大岡信『裝飾と非裝飾』晶文社／ボガトウイリョフ『衣裳のフォークロア』セリか書房／鶴岡真弓『ケルト／裝飾的思考』筑摩書房／同『裝飾する魂 日本の文様芸術』平凡社／城一夫『裝飾文様の東と西』明現社／柳宗玄『かたちとの対話』同時代ライブラリー、岩波書店／ティモシー・ノード画・パトリシア・セリグマン『裝飾文字の世界 カリグラフィー』三省堂／小野二郎『裝飾芸術 ウィリアム・モリスとその周辺』青土社／吉田光邦『文様の博物誌』同朋舎出版／杉橋陽一『一角獣の変容』朝日出版社／森護『世界の紋章』三省堂／沼田頼輔『日本紋章学』新人物往来社／安田喜憲『蛇と十字架』人文書院／小島嚶禮『蛇の宇宙誌』東京美術／大和岩雄『十字架と渦巻』白水社／ミッシェル・バスターウロ『悪魔の布』白水社／塚本洋太郎『花の美術と歴史』河出書房新社／アンドレ・シャステル『グロテスクの系譜』文彩社／『イメージの博物誌七 螺旋の神秘』平凡社／『イメージの博物誌十三 龍とドラゴン』同／『イメージの博物誌十五 生命の樹』同／切畑健『日本の染織8 能装束』京都書院／同『日本の染織9 狂言の装束』同

12. 通信と伝達 (ヘルメス・電話・郵便・ラジオ・パソコン通信・テレビ・インターネット)

山口昌男『道化の民俗学』新潮社／鈴木和成『テレフォン』洋泉社／吉見俊哉他『メディアとしての電話』弘文堂／山田登世子『声の銀河系』河出書房新社／マクルーハン『メディア論』みすず書房／吉見俊哉『声』の資本主義』講談社選書メチエ／中野翠編『日本の名隨筆70 電話』作品社／岡田朋之「テレコム文化の現在形」〔井上俊編『現代文化を学ぶ』世界思想社〕／『言語生活』—電話—1985年10月号、筑摩書房

／吉見俊哉『メディア時代の文化社会学』新曜社／東浩紀『動物化するポストモダン』講談社現代新書／佐藤卓巳『現代メディア史』岩波書店／阿部潔『日常のなかのコミュニケーション』北樹出版／橋元良明『コミュニケーション学への招待』大修館書店

13. 身ぶり言語の比較

山口昌男「ハーポ・マルクスとブレヒト」「道化的世界」〔『道化的世界』ちくま文庫〕／デズモンド・モリス『ジェスチュア』角川選書／野村雅一『身ぶりとしぐさの人類学』中公新書／同『ボディランゲージを読む』平凡社／藤岡喜愛他『からだ』弘文堂／アンドレ・ルロワ＝グーラン『身ぶりと言葉』新潮社／池上俊一『歴史としての身体』柏書房／シュミット『中世の身ぶり』みすず書房／小林祐子『身ぶり言語の日英比較』エレクト選書／野村雅一・鈴木道子責任編集『身ぶりと音楽』東京書籍／多田道太郎『しぐさの日本文化』筑摩書房／★『別冊國文學 身体論とパフォーマンス』學燈社の関係書誌を参照／『言語生活』—身体から発することば—1987年2月号、筑摩書房／『言語生活』—身振り言語—1973年3月号、同／武智鉄二「しぐさの日本語」〔『言語生活』1979年6月号、同〕／風間喜代三「身ぶり」〔『ことばの身体誌』平凡社〕／リジャー・プロズナハン『しぐさの比較文化』大修館書店／西原忠毅『ジェスチャー英語』九州大学出版会／中野道雄『ジェスチュアの英語』創元社

14. メディアとしての身体 (Ex. 足)

山口昌男「足から見た世界」〔『文化の詩学II』岩波現代選書〕／同「足の文化人類学」〔『笑いと逸脱』筑摩書房〕／河野亮仙「摺り足」、宮尾慈良「足にみる神の動態」〔『身ぶりと音楽』東京書籍〕／『思想』—身体—1982年8月号、岩波書店／『エピステーメー』—身体—1977年12、朝日出版／『岩波講座 現代社会学4 身体と間身体の社会学』岩波書店／湯浅泰雄『身体の宇宙性—東洋と西洋』岩波書店／山口昌男他編『別冊國文學 身体論とパフォーマンス』學燈社★本誌収録の関係書誌参照／堀内守『手の宇宙誌』黎明書房／水野祥太郎『ヒトの足—この謎にみちたもの』創元社／野村雅一他編『技術としての身体』大修館書店／ルークス、フランソワーズ『肉体—伝統社会における慣習と知恵』マルジュ社／野村雅一『『身体技法論』へのノート』〔『岩波講座文化人類学 第3巻「もの」への人間世界』〕／『言語』—ボディランゲージの世界・身体が発信するメッセージ—1992年1月号、大修館書店／『叢書 身体と文化』全3巻、大修館書店／秦恒平『手さぐり日本—「手」の思索—』玉川大学出版部／加藤秀俊「日本人の手」〔『加藤秀俊著作集4』中央公論社〕／野中涼『歩く文化座る文化—比較文化論—』早稲田大学出版部／ギャリック・マラーリ『人間は手で話す』PMC出版／山折哲雄『坐の文化論』講談社学術文庫／瀧元誠樹『観知の身体技法』／高橋康也編『声と身体の場所』岩波書店／竹内敏晴『ことばが劈かれるとき』ちくま書房／同『「からだ」と「ことば」のレッスン 自分に気づき・他者に会う』講談社現代新書／今福龍太『身体としての書物』東京外国語大

学出版会／尼ヶ崎彬『ことばと身体』勁草書房／モリス・メルロ・ポンティ『メルロ＝ポンティ コレクション』筑摩書房／現代思想総特集『メルロ＝ポンティ 身体論の深化と拡張』青土社

15. 仮面の比較文化

山口昌男『道化の民俗学』新潮社／レヴィストロース『仮面の道』新潮社／吉田憲司『仮面の森』講談社／坂部恵『仮面の解釈』東京大学出版会／同『仮面の時代』河出書房新社／国立歴史民族博物館編『変身する』平凡社／堀上謙『能面変妖』朝日新聞社／『is』—仮面—第4号、ポーラ文化研究所／武智鉄二「仮面・刺青・化粧のグロテスク」〔『伝統と現代』—グロテスク—17号、伝統と現代社〕／『折口信夫全集』16、17、中公文庫／谷川健一「仮面と人形」〔『魔の系譜』講談社学術文庫〕／山折哲雄「仮面の誕生」〔『生と死のコスモグラフィ』法蔵館〕／縄文造形研究会編著『縄文図像学II 仮面と身体像』言叢社／山城祥二編『仮面考』リプロポート／西村清和「お面ごっこ」〔『遊びの現象学』勁草書房〕／柳田国男「仮面に関する一〇の所見」〔『定本柳田國男集』31、筑摩書房〕／『エビステマー』—仮面 ベルソナー—1975年11、朝日出版／シュテルンベルク『デーモン考』法政大学出版局／『早川孝太郎全集』3、未来社／渡辺守章『仮面と身体』朝日出版／ペドゥアン『仮面の民俗学』白水社／西村清和『遊びの現象学』勁草書房／中村保雄『仮面と信仰』新潮選書／バシュラール「仮面」〔『夢みる権利』筑摩叢書〕／野村伸一『仮面戯と放浪芸人』ありな書房／国立歴史民俗博物館編『変身する仮面と異装の精神史』平凡社／廣田律子『鬼の来た道 中国の仮面と祭り』玉川大学出版会／桜井徳太郎他『変身 ふおるく叢書3』弘文堂／アラダイス・ニコル『ハーレクインの世界』岩波書店／木村重信「仮面とはなにか」〔『続 民族学の旅』講談社〕／後藤淑「民俗から仮面劇へ」〔『講座日本の民俗8 芸能』有精堂〕／金原信高他『能面入門』平凡社／坂部恵『仮面の解釈学』東京大学出版会

16. 巡礼の比較

武田明『巡礼の民俗』岩崎美術社／白洲正子『巡礼の旅』淡交社／同『十一面観音巡礼』新潮社／『折口信夫全集』12、14、27、中公文庫／坂本恵「巡礼とコミュニケーション」〔『シリーズ世界史への問い3』岩波書店〕／前嶋信次編『メッカ』芙蓉書房／永積昭「巡礼・聖戦・救世主」〔家島彦一・渡辺金一編『イスラム世界の人びと 四・海上史』東洋経済新報社〕／星野英紀「歩きと巡りの宗教性 西国巡礼と四国遍路」〔『大系 仏教と日本人6 遊行と漂泊』春秋社〕／ウド・トゥウォルシュカ『遍歴 約束の土地を求めて』青土社／五来重『遊行と巡礼』角川選書／青木保『御岳巡礼』筑摩書房／近藤喜博『四国遍路研究』三弥井書店／田中博『巡礼地の世界』古今書院／前田卓『巡礼の社会学』ミネルヴァ書院／松崎憲三『巡りのフォークロア』名著出版／真野俊和編『講座日本の巡礼』全三巻、雄山閣／山折哲雄『巡礼の思想』弘文堂／渡辺昌美『巡礼の道』中央論社／星野英紀『巡礼』講談社／バレ・ギェルガン『巡礼の道 星の道 コンポステラへ旅する人びと』平凡社

／久保田展弘『山岳霊場巡礼』新潮社／渡邊昌美『巡礼の道』中公新書
／『芸術新潮』—墓 巡礼—1989年8月号、新潮社／早坂暁『日本の名
随筆 別巻21 巡礼』作品社／高群逸枝『お通路』中公文庫／山口昌
男「王子の受難」(一)〔『天皇制の文化人類学』立風書房〕／懐徳堂友の
会編『道と巡礼 心を旅するひとびと』和泉書院／前田卓『巡礼の社会
学』ミネルヴァ書房／近藤喜博『四国通路』桜楓社／松田修「補陀落
詣での死の旅」〔『伝統と現代』16号、1972年、伝統と現代社〕／新城常
三『社寺参詣の社会経済史的研究』塙書房／宮崎忍勝『通路』小学館／
三好一成他「聖地と巡礼」／山折哲雄・宮田登編『日本歴史民俗論集 8
漂泊の民俗文化』吉川弘文館／井本英一「巡礼の起源をたずねて」〔『習
俗の起源をたずねて』法政大学出版局〕／大阪市立博物館編『社寺参詣
曼荼羅』平凡社／大橋俊雄『一遍聖』講談社学術文庫

17. 登山の比較

小島烏水『日本アルプス』岩波文庫／田部重治『山と溪谷』岩波文庫／
ウェストン『日本アルプスの登山と探検』岩波文庫／串田孫一自選『山
のパンセ』岩波文庫／松方三郎『アルプス記』平凡社／田部重治『わが
山旅五十年』平凡社／ミシュレ『山』藤原書店／深田久弥『日本百名
山』朝日新聞社／長谷川末夫『汽車が好き、山は友だち』草思社／ウェ
ストン『日本アルプス再訪』平凡社／住谷雄幸『江戸百名山図譜』小学
館／高澤光雄編『北海道登山記録と研究』札幌山の会／滝本幸夫『北の
山の栄光と悲劇』岳書房／同『北の山—北海道55座の記録と案内』山
と溪谷社／ウィンパー『アルプス登攀記』上・下、岩波文庫／深田久弥
『わが山山』中公文庫／松本竜雄『初登攀行』同／吉尾弘『垂直に挑む』
同／小西政継『マッターホルン北壁』同／同『グランドジョラス北壁』
同／小森康行『垂直の上と下』同／長谷川恒男『岩壁よ おはよう』同
／尾崎隆『果てしなき山行』同／岩坪五郎編『K十二峰遠征記』同／北
杜夫編『日本の名随筆10 山』作品社／榎有恒『わたしの山旅』岩波
新書／深田久弥『ヒマラヤ登攀記』同／宮下啓三『日本アルプス見立て
の文化史』みすず書房／瓜生卓造『日本山岳文学史』東京新聞出版局／
安川茂雄『近代日本登山史』あかね書房／近藤信行『小島烏水 山の風
流使者伝』創文社／田中澄江『花の百名山』文藝春秋／山崎安治『新稿
日本登山史』白水社／柏瀬祐之『ヒト、山に登る』白水社／薬師義美
編『ヒマラヤ文献目録』白水社／小西政継『シャヌー北壁』白水社／ミ
シュレ『山』藤原書店／西村謙一「開かれた『山』—新田次郎『強力伝』
論」〔『成城国文学』第13号1997年3月〕／『深田久弥・山の文学全集』
全12巻、朝日新聞社／『新田次郎全集』新潮社／★雑誌『アルプ』の
バックナンバー—図書館にあり／岩田修二「『水壁』の自然誌」〔杉浦芳夫
編『文学 人域 越境する地理学』古今書院／西岡一雄『登山の小史と
用具の変遷』朋文堂〕／『世界山岳百科事典』山と溪谷社／福田宏年『山
の文学紀行』沖積舎／川口邦雄『日本の山100』講談社現代新書／三田
博雄『山の思想史』岩波新書／榎有恒『わたしの山旅』同／後藤允『尾
瀬—山小屋三代の記』同／富山太佳夫「女は街へ、男は山へ」〔『空から

女が降ってくる』岩波書店〕／今福龍太編『むかしの山旅』河出文庫

18. 酒文化の比較

倉林正次『饗宴の研究』桜風社／伊藤幹治・渡辺欣雄『宴』弘文堂／伊藤幹治『宴と日本文化』中央公論／柳田国男『酒の飲みようの変遷』〔『木綿以前の事』岩波文庫〕／サントリー不易流行研究所編『若者と酒—飲酒から見た現代若者像』サントリー不易流行研究所／同『宴会とパーティー』同／神崎宣武『酒の日本文化』角川選書／『言語生活』—当代飲コミュニケーション考—1986年12月号、筑摩書房／狐野利久『喫茶、飲酒の習慣と文化』〔『比較文化入門』北星堂書店〕／古澤淑『酒の文化史』丸善ライブラリー／麻井宇介『比較ワイン文化考』中公新書／『日本の美学』—宴—第8号、ペリカン社／神崎宣武『盛り場のフォークロア』河出書房新社／『is』—宴—19号、ポーラ文化研究所／海野弘『酒場の文化史—ドリンカーたちの華麗な足跡』TBSブリタニカ／吉行淳之介 vs 開高健『対談・美酒について—一人はなぜ酒を語るか』同／一島英治『万葉集にみる酒の文化』裳華房／高田公理「“酒”をめぐる美意識の変化」〔『現代日本文化における伝統と変容1 暮らしの美意識』ドメス出版〕／コリン・ウィルソン『わが酒の讃歌』徳間書店／『東京大学公開講座 酒』／山本祥一郎監修『酒・さけ事典』大修館書店／キングズレー・エイミス『酒について』講談社／『言語生活』—酒—1986年12号、筑摩書房／川口謙二『日本酒のフォークロア』三一書房／玉村豊男『酒宴のかたち』紀伊國屋書店／網野善彦 vs 阿部謹也「宴会ともてなし」〔『対談・中世の再発見 市・贈与・宴会』平凡社選書〕／春山行夫『ビールの文化史』平凡社／中村喬編訳『中国の酒書』東洋文庫

19. 水と文化

山口昌男「水と世紀末の文明」〔『自然と文明の想像力』宝島社〕／石上七鞘『水の伝承』新公論社／『is』—水—第6号、ポーラ文化研究所／ソーラーシステム研究グループ『都市の水環境』NHK ブックス／小島貞男『おいしい水の探求』NHK ブックス／エリアーデ「水の象徴」〔『聖と俗』法政大学出版局〕／鎌田東二「水の作法・水の祭祀」〔『異界のフォノロジー』河出書房新社〕／エリアーデ「水と水のシンボリズム」〔『エリアーデ著作集』2、せりか書房〕／若尾五雄「河童と湧水」〔『河童と荒魂』塚屋図書〕／東三郎『北海道 森と水の話』北海道新聞社／樋口清之『水と日本人』ガイア／清水公照・佐田稲子『お水取り』平凡社カラー新書／富山和子『水と緑と土』中公新書／富山和子『水の文化史』文藝春秋／佐藤武夫『水の経済学』岩波新書／山口嘉之『水を訪れる』中公新書／中西準子『水の環境戦略』岩波新書／高橋裕『都市と水』同／三島雲海『日本の水』誠文堂／『エピステーメー』—水 生と死の深淵—1976年4、朝日出版／井上祥子『ひとしずくの水が救う』日興企画／井上靖編『日本の名随筆33 水』作品社／玉城哲『水社会の構造』論創社／バシュラール『水と夢』国文社／『太陽』—水の文化—1985年6月号、平凡社／芦澤一洋『アーヴィングを読んだ日』小沢書店／安藤徹「橋・峠・川・水—空間を繋ぐ—」〔『物語とメディア 新

物語研究1』有精堂〕/『水と私たち—北海道自然保護読本—』北海道自然保護協会／堀越正雄『井戸と水道の話』論創社／同『水道の文化史』鹿島出版会／★『地球・自然環境の本全情報』紀伊國屋書店を参照／及川馥『バシュラルの詩学』法政大学出版局／谷川健一編『日本民俗文化大系2 太陽と月』小学館／アルヴ・リトル・クルーティエ『水と温泉の文化史』三省堂／宇井純『日本の水はよみがえるか』NHK ライブラリー／榮森康治郎『水と暮らしの文化史』TOTO 出版／田島よしのぶ『水と土と森の収奪』海鳥社／『水の生活文化 水の博物館「水」』KBI 叢書／鯖田豊之『水道の思想 都市と水の文化誌』中公新書／榎根勇他『水その学際的アプローチ』日本学術振興会／『九州大学公開講座16 水を考える』九州大学出版会／吉成直樹「水による《死と再生》—八重山諸島」〔『マレビトの文化史 琉球列島文化多元構成論』第一書房〕／橋本鉄治『水声譚』十月社／吉成直樹「『夏の若水』は存在する—七夕・盆行事の水をめぐる俗信」〔『俗信のコスモロジー』白水社〕／赤坂憲雄「物語の境界／境界の物語」〔『叢書史層を掘る1 方法としての境界』新曜社〕／本田和子『オフィーリアの系譜』弘文堂／桜井哲夫「〈水〉の近代—入浴・文化とミネラル・ウォーター」〔『へるめす』1990年No25、岩波書店〕／中沢新一編『神々と妖精たち 東洋文庫ふしぎの国』平凡社／アンヌ・ドゥクロス『水の世界 地球・人間・象徴体系』TOTO 出版／グリオール『水の神』せりか書房／同『青い狐』同／コバン『浜辺の誕生』藤原書店／山口昌男『河童のコスモロジー 石田英一郎の思想と学問』講談社学術文庫／松枝到「水のなかの道祖神」〔『現代思想』1984年11月号、青土社〕／網野善彦他編『瓜と龍蛇』福音館書店

20. 色彩の比較文化

山口昌男「青の文化誌」〔『可視光』第一巻第三号、日本ペイント〕／同「黒の人類学」〔『人類学的思考』筑摩書房〕／『is』—色—1982年増刊号、ポーラ文化研究所／小町谷朝生『色彩のアルケオロジー』勁草書房／長崎盛輝『色の日本史』淡交社／大岡信編『日本の色』朝日新聞社／『日本の美学』—色—1985年5号、ペリかん社／前田雨城『色』法政大学出版局／『季刊・自然と文化』—白と黒—7号、日本ナショナルトラスト／武井邦彦『日本色彩事典』笠間書院／江森康文他『色 その科学と文化』朝倉書店／小林重順『日本人の心と色—色彩によるユニークな比較文化論』講談社／福田邦夫『日本の伝統色 色の小辞典』読売新聞社／赤池鉄士『英語色彩の文化誌』研究社出版／ゲーテ「色彩論」〔『ゲーテ全集14』潮出版社〕／ルドルフ・シュタイナー『色彩の本質』イザラ書房／同『色彩の秘密』同／城一夫『色彩の宇宙誌—色彩の文化史—』明現社／江幡潤『色名の由来』東書選書／伊原昭『日本文学 色彩用語集成』笠間書院／末永蒼生『虹の映画彩色で愉しむシネマ案内』白水社／中村雄二郎『色の領界かたちの分身』〔『へるめす』1987年13号、岩波書店〕／『言語生活』—色とことば—1984年8月号、筑摩書房／黒田日出男『境界の中世 象徴の中世』東海大学出版会／田中日佐夫「日本

美術にあらわれた金と銀」〔『日本美の心象風景』吉川弘文館〕／村上道太郎『色の語る日本の歴史』全3冊、そして／網野善彦 vs 阿部謹也「社会史と歴史学の伝統」〔『対談・中世の再発見』平凡社選書〕／『日本とアジア=生活と造形6 色と形』学生社／城一夫他『色彩の歴史と文化』明現社／ミシェル・パストゥロー『ヨーロッパの色彩』パピルス／小町谷朝生『色彩の発見』NHK ブックス／野村順一『増補 色の秘密』ネスコ／柳田國男『目に映ずる世相』〔『明治大正史 世相篇』東洋文庫〕

21. シャーマニズム

山口昌男「シャーマンとしてのヘルメス」〔『道化の民俗学』新潮社〕／山口昌男 vs 長島信弘「呪術・占い・シャーマニズム」〔『文化人類学の視角』岩波書店〕／エリアーデ『シャーマニズム』冬樹社／倉塚暉子『巫女の文化』平凡社／ロジャー・ウォルシュ『シャーマニズムの精神人類学』春秋社／ピアーズ・ヴィテプスキー『シャーマンの世界』創元社／柳田國男「巫子考」〔『柳田國男全集 11』ちくま文庫〕／『古野清人著作集 3』—シャーマニズムの研究—、三一書房／カスターネーダー『呪術ドンファン』二見書房／崔古城『韓国のシャーマン』国文社／『現代思想』—シャーマニズム—1984年7月号、青土社／『折口信夫全集』1、2、3、7、9、10、11、16、20、24、30、中公文庫／レイザー『金枝篇』1) 2) 岩波文庫／桜井徳太郎編『シャーマニズムの世界』春秋社／『エリアーデ著作集』13、せりが書房／谷川健一編『巫女の世界 日本民俗文化資料集成6』三一書房／『日本シャーマニズムの研究 上・下 桜井徳太郎著作集5・6』吉川弘文館／吉本隆明『共同幻想論』河出書房新社／山下欣一『奄美のシャーマニズム』弘文堂／韓国文化院監修『シャーマニズムと韓国文化』学生社／アジア民俗写真叢書『万神 韓国のシャーマニズム』平河出版／張紫農『中国の巫術』学生社／中山太郎『日本巫女史』バルトス社／佐々木宏幹『都市に息づくシャーマニズム』〔『異界が覗く市街図』青弓社〕／同『シャーマニズムの世界』講談社学術文庫／同『シャーマニズム』中公新書／マリノフスキー『呪術・科学・宗教・神話』人文書院／文化庁文化保護部編『民俗資料選集 巫女の習俗』I~III／山上伊豆母『巫女の歴史 日本宗教の母胎』雄山閣／ダニエル・ローレンス・オキーフ『盗まれた稲妻 呪術の社会学』上・下、法政大学出版局／中沢新一編『神々と妖精たち 東洋文庫ふしぎの国9』平凡社／林達夫「呪術の世界」〔『林達夫著作集2』平凡社〕／『日本とアジア=生活と造形1 民族と信仰』学生社／M・エリアーデ『生と再生』東京大学出版会／マルティエノ『呪術的世界』平凡社／E・リーチ『文化とコミュニケーション』紀伊國屋書店／河北新報社編集局編『もう一つの世界=庶民信仰』勁草書房／岩田勝『神楽新考』名著出版／山折哲雄『神と翁の民俗学』講談社学術文庫

22. アニミズム

安藤恵崇「日本文化とシャーマニズム」〔安藤恵崇他『日本文化を読み直す』北樹出版〕／平川祐弘・鶴田欣也編『アニミズムを読む 日本文学における自然・生命・自己』新曜社／岩田慶治『カミと神 アニミズム宇宙の旅』講談社／同『コスモスの思想』岩波書店／村武精一『アニミズムの世界』弘文堂／同『祭祀空間の構造』東京大学出版会／柳田国男『先祖の話』筑摩書房／フォーチス・マイヤー『祖先崇拜の論理』ベリかん社／佐々木宏幹『仏の霊の人類学』春秋社／村武精一・佐々木宏幹『宗教人類学』新曜社／同『仏と霊の人類学—仏教文化の深層構造』春秋社／池上良正『民俗宗教と救い』淡交社／伊藤幹治『贈与交換の人類学』筑摩書房

23. お化け及びお化け屋敷

柳田国男『妖怪談義』〔『柳田国男全集』6、ちくま文庫〕／宮田登『妖怪の民俗学』岩波書店／池田弥三郎『日本の幽霊』中央公論社／小松和彦『悪霊論』青土社／『三遊亭円朝コレクション 幽霊名画集』ベリかん社／高田衛監修『鳥山石燕 画図百鬼夜行』国書刊行会／『ユリイカ』—妖怪学入門—1984年8月号、青土社／『歴史読本』—異界の日本史・鬼・天狗・妖怪の謎—1989年12月号、新人物往来社／中野美代子『中国の妖怪』岩波新書／稲垣足穂『稲生家=化物コンクール』人間と歴史社／『季刊 自然と文化』—妖怪—1984年秋季号、日本ナショナルトラスト／宮田登「屋敷と妖怪・家の神」〔『女の霊力と家の神』人文書院〕／折口信夫全集』3、15、16、20、中公文庫／榎図かずお「お化け屋敷進化論」〔『東京人』1997年8月号、都市出版(株)〕／谷川健一編『妖怪 日本民俗文化資料集成 8』三一書房／岩井宏實監修『図説 日本の妖怪』河出書房新社／宮田登「近代の逢魔ヶ時・東京の魔所」〔『異界が覗く市街図』青弓社〕／諏訪春雄『日本の幽霊』岩波新書／『太陽』—お化けと幽霊—1975年8月号、平凡社／『太陽』—妖怪現わる—1995年5月号、同／『別冊太陽 日本の妖怪 日本のこころ57』平凡社／常光徹『学校の怪談』講談社KKベストセラーズ／橋爪紳也『化物屋敷 遊戯化される恐怖』中公新書／荒俣宏・小松和彦『妖怪草紙』工作舎／向井英明「化物屋敷再考」〔『都市民俗学へのいざない—混沌と生成』雄山閣〕／荒俣宏編『妖怪・怪物 東洋文庫ふしぎの国1』平凡社／井之口章次『日本の俗信』弘文堂／『見世物研究』見世物学会／鶴飼正樹『見世物稼業—安田里美一代記』新宿書房

24. 遊園地

(ディズニーランド・浅草・宝塚)

中藤保則『遊園地の文化史』自由現代社／NHK取材班『世界の遊園地』／加藤秀俊『都市と娯楽』鹿島研究所出版会／松本孝幸『遊園地の現在学』JIC／吉見俊哉「デズニランド化する都市」〔『アリティ・トランジット』紀伊國屋書店〕／『東京人』—遊園地の誘惑—1997年8月号、都市出版株式会社／能登路雅子「ディズニーランドの巡礼観光」〔『観光人類学』新曜社〕／野口恒『『夢の王国』の光と影 東京ディズニーランドを創った男たち』TBSブリタニカ／加太こうじ『浅草物語』時事通信社／栗田房穂・高成田亨『デズニランドの経済学』朝日文庫／

津金澤聰廣『宝塚戦略 小林一三の生活文化論』講談社現代新書／竹林民郎「機械文化の受容と“交通文化圏”の成立—小林一三と宝塚少女歌劇」〔『笑楽の系譜』同文館〕／吉見俊哉「ディズニーランドという幻影」〔『顕わずメディア／隠すメディア』ポーラ文化研究所〕／同「シュミラクルの楽園—都市としてのディズニーランド」〔『零（ゼロ）の修辞学』リプロポート〕／伊藤正視『人が集まるテーマパークの秘密』日本経済新聞社／浅田彰「東京デズニーランドに行ったこと」〔『別冊国文学文化記号論 A—Z』學燈社〕／前田愛「劇場としての浅草」〔前出同〕／能登路雅子『ディズニーランドという聖地』岩波書店／マラン「ディズニーランドの記号学」〔『現代思想』1983年2月号、青土社〕／『大宅壮一文庫雑誌記事索引総目録 件名編 4』

25. カーニバルと祝祭

山口昌男「カーニバル文化としての狂言」〔『宇宙の孤児』第三文明社〕／同「アンソールのカーニバル的世界」〔『道化的世界』ちくま文庫〕／同「記号と境界」〔『文化と両義性』岩波書店〕／同『本の神話学』中央公論社／同『歴史・祝祭・神話』中央公論社／同『道化の民俗学』新潮社／『日本歴史と芸能都市の祝祭 第十卷』平凡社／コスマン『ヨーロッパの祝祭典』原書房／村武精一「生と死の祝祭空間」〔『日本の美学』第16号、ペリかん社〕／服部幸雄『大いなる小屋—近世都市の祝祭空間—』平凡社／ウンベルト・エーコ他『カーニバル!』岩波書店／レオン・マルケ他『ヨーロッパの祝祭』河出書房新社／マクルーン編『世界を映す鏡—シリヴァリ・カーニバル・オリンピック』平凡社／兼高かおる『世界の祭り』ソニー・マガジズ／マックグラシャン「野蛮で美しい国」〔山口昌男編『現代人の思想15 未開と文明』平凡社〕／シュテルンベルク『デーモン考』法政大学出版局／伊藤正視『人が集まるテーマパークの秘密』日本経済新聞社／桜井徳太郎他『ハレ・ケ・ケガレ』青土社／ターナー『儀礼の過程』思索社／ヘネップ『人類学ゼミナール3 通過儀礼』弘文堂／山口昌男「交換と媒介の磁場」〔『叢書文化の現在』岩波書店〕／松平誠「道で結ぶ祝祭」〔『国立歴史民俗博物館研究報告』第67集〕／同『都市祝祭の社会学』有斐閣／山城祥二『祭りとイベントのつくり方』晶文社／米山俊直『祇園祭—都市人類学ことはじめ』中央公論社／同『天神祭—大阪の祭礼—』同／同『都市と祭りの人類学』河出書房新社／同『ドキュメント 祇園祭—都市と祭りと民衆』日本放送出版協会／アラン・フォール『パリのカーニバル』平凡社／森田三郎『祭りの文化人類学』世界思想社／植田重雄『ヨーロッパの神と祭り 光と闇の習俗』早稲田大学出版会／青木保他編『儀礼・文化と形式的行動』東京大学出版会／J・カロ・パロッハ『カーニバル』法政大学出版局／V・ターナー&山口昌男編『見世物の人類学』三省堂／大室幹雄『桃源の夢想』同／山口昌男『祝祭都市』岩波書店／松平誠「祝祭都市の成立と変容」〔宮田登編『日本民俗文化大系11 都市と田舎』小学館〕／『言語生活』—祭—1977年8月号、筑摩書房／三隅治雄『祭りの情念』三一書房／石上七鞘『日本の民俗伝承』蒼洋社／アルフ

レッド・シモン『記号と夢想 演劇と祝祭についての考察』法政大学出版局／ナタリー・ゼーモン・デイヴィス「女性上位」『『さかさまの世界』岩波書店』／鶴見俊輔・小林和夫編『祭りとイベントのつくり方』晶文社／『北の生活文庫 9 まつりと民俗芸能』北海道／ハリソン『古代芸術と祭式』ちくま学芸文庫／天野武『子どもの歳時記—祭りと儀式』岩田書院／当問一郎『日本の民俗学シリーズ 2 沖縄の祭りと芸能』雄山閣／古川貞雄『村の遊び日 休日と若者組の社会史』平凡社選書／ミハイル・パフチン『フランソワ・ラブレールの作品と中世・ルネッサンスの民衆文化』せりか書房

26. 舞 踏

山口昌男「舞踏と世界観」『知の祝祭』青土社』／鼎談・郡司正勝・市川雅・山口昌男「舞いと踊りの世界」『[is]—舞踏—第16、ポーラ文化研究所』／山口昌男 vs ガデス「身体の幾何学—フラメンコと文化のアイデンティティ」『へるめす』1986年7号、岩波書店』／マルセル・グラネ『中国古代の舞踏と伝説』せりか書房／河野亮仙「舞踊武術」、宮尾慈良「身ぶりの照応—舞踊の身体試論」『身ぶりと音楽』東京書籍』／鈴木晶『踊る世』新書館／クルト・ザックス『世界舞踊史』音楽之友社／藤田洋『伝統芸能シリーズ 1 日本舞踊』ぎょうせい／レイナ『バレエの歴史』音楽之友社／平野秀秋『移動人間論』紀伊國屋書店』／『早川孝太郎全集』1、未来社』／三浦雅士「イデオロギーとしての身体ダンスとオリエンタリズム」『へるめす』1988年創刊三周年記念別巻、岩波書店』／ケレーニ『迷宮と神話』弘文堂』／郡司正勝『おどりの美学』演劇出版社』／小林正佳『踊りと身体の回路』青弓社』／西郷信綱『古代の声』朝日選書』／柳田国男「踊の今と昔」『定本柳田國男集』7、筑摩書房』／同「舞と踊との差別」『定本柳田國男集』31、同』／『文学』—日本舞踊—1960年10月号、岩波書店』／宇野邦一「舞踏・奇妙なポトラッチ」『意味の果ての旅』青土社』／高橋英夫「幽顕の境」、本田和子「『花一匁』考—子どもたちの『歌垣』」『現代思想』1983年2月号、青土社』／星野紘『歌垣と反問の民族誌』創樹社』／『本田安次著作集』全12巻、錦正社』／三隅治雄『日本民俗芸能概論』東京堂』／吉川周平「民俗舞踊の芸能」『講座日本の民俗 8 芸能』有精堂』／鶴見俊輔『アメノウズメ伝』平凡社』／ハリソン「原始祭式、無言所作踊り」『古代芸術と祭式』ちくま学芸文庫』／舞踊教育研究会編『舞踊学講義』大修館書店』／マーガレット・ドゥブラー『舞踊学原論』大修館書店』／ルドルフ・ラバン『身体運動の習得』白水社』／スザンヌ・ランガー『芸術とは何か』岩波新書』／リリアン・B・ローウラー『古代ギリシアの舞踊文化』未来社』／ジョン・マーチン『舞踊入門』大修館書店』／エレーナ・メセーニ『身体運動の表現学』泰流社』／ジャン・ジュルジュ・ノヴェール『舞踊とバレエについての手紙』富山房』／ポール・ヴァレリー「魂と舞踊」『ヴァレリー全集3』筑摩書房』★前出の『舞踊学講義』大修館書店に詳しい文献あり

27. 文化表現としての相撲

山口昌男「相撲における儀礼と宇宙観」〔『国立民族博物館研究報告 第15集』〕/V・ターナー・山口昌男編『見世物の人類学』三省堂/宮本徳蔵『力士漂泊』ちくま文庫/三田村篤魚『相撲の話』中公文庫/和歌森太郎『相撲の歴史と民俗』〔『和歌森太郎著作集15』弘文堂〕/若尾五雄『河童の荒魂』堺屋図書/『日本民俗文化大系』七、小学館/寒川恒夫「古代人の遊びの系譜」〔『日本の古代 13 心のなかの宇宙』中央公論社〕/長谷川明『相撲の誕生』新潮選書/池田雅雄『相撲の歴史』平凡社カラー新書/三木愛花『國技角力通』四六書院/『芸術新潮』—日本文化を支えてきた相撲の美学—1993年7月号、新潮社/『太陽』—大相撲—1972年4月号、平凡社/菌部幹生「相撲人説話の視点から—宇治拾遺物語編者の意識—」〔『駒澤短大國文』第27号、1997年3月〕

28. 風水論

『季刊 自然と文化』—東アジアの風水思想—36号、日本ナショナルトラスト/渡邊欣雄『風水思想と東アジア』人文書院/同『風水気の景観地理学』人文書院/加門七海『東京魔方陣』河出書房新社/同『大江戸魔方陣』同/鮑黎明『風水で運を呼び込む大事典』東洋経済/三浦國雄『中国人のトボス』平凡社/御堂龍児『定本地理風水大全』国書刊行会/朝鮮総督府編『朝鮮の風水』国書刊行会/中野美代子「長江をめぐるひょうたんシンボリズム—風水文化論」〔『ひょうたん漫遊録』朝日選書〕/吉野裕子『神々の誕生 易・五行と日本の神々』岩波書店/渡邊欣雄・三浦國雄編『環中国海の民俗と文化—4 風水論集』凱風社/デ・ホロート『中国の風水思想』第一書房/池上正治『気の不思議 その源流をさかのぼる』講談社現代新書/李国棟「文学と風水」〔『日中文化の源流 文学と神話からの分析』白帝社〕

29. 「飛ぶ」

(韋駄天・飛天・天使・天馬・天狗)

小島禮禮編著『人・他界・馬』東京美術/『is』—空中遊戯—1989年45号、ポーラ文化研究所/稲垣足穂『飛行機物語』第三文明社/同『花月幻想』立風書房/高山宏『『憑き』の方へ』〔『黒に染める』ありな書房〕/『調査情報』—飛ぶ—1973年10月号、TBS/ニーチェ「重さの霊」〔『ツァラトゥストラ』中公文庫〕/バシュラール『空と夢』法政大学出版会/石田英一郎「天馬の道」〔『桃太郎の母』講談社文庫〕/大和岩雄「箭の二面性・両義性と魔女」〔『魔女はなぜ人を喰うか』大和書房〕/宮本袈裟雄『天狗と修験者』人文書院/堀切直人『飛行少年の系譜』青弓社/山口香代子「インド仏教美術における「弧を描く天衣を翻す飛天」—その源流と成立—」〔『聖心女子大学大学院機関誌文学・史学』第18集、1996年7月〕/フランシス・ハックスリー『イメージの博物誌13 龍とドラゴン』平凡社/荒川紘『龍の起源』紀伊國屋書店/野口常夫「飛ぶ—レオナルドの後裔たち」〔『へるめす』1992年No35、岩波書店〕/杉村棟「空飛ぶ絨毯〈砂漠の夢〉」〔梅棹忠夫編『異文化の探求』講談社〕/富山太佳夫『空から女が降ってくる』岩波書店/稲田浩二「天翔ける馬」〔『昔話の源流』三弥井書店〕/ロミ『突飛なるものの歴史』作品社/『龍の物語』新宿書房/『荘子』中公クラシックス

30. 水 神

石上七鞘『水の伝承』新公論社／山本博『神秘の水と井戸』學生社／『折口信夫全集』3、15、16、17、中公文庫／マルセル・グリオー『水の神—ドゴン族の神話的世界』セリカ書房／石田英一郎『水神童子』〔『桃太郎の母』講談社文庫〕／鎌田東二『水神童子としての『空海』』〔『聖トポロジー』河出書房新社〕／同『水神伝説』泰流社／若尾五雄『河童の荒魂』堺屋図書／野村純一『水神少童の昔話』〔『日本民俗学』96号、日本民俗学会〕／『定本柳田國男集』1～14、17、21、26、27、29、30、筑摩書房／小野重朗『水神』〔『民俗神の系譜』法政大学出版〕／『早川孝太郎全集』8、未來社／吉野裕子『井戸と竜宮』〔『日本古代呪術』大和書房〕／石田英一郎『新版河童駒引考』〔『石田英一郎全集5』筑摩書房〕／萩原秀三郎『目でみる民俗神2 豊穰の神と家の神』東京美術／宮尾しげを『芸能民俗学』現代ジャーナリズム出版会／山口昌男『河童のコスモロジー 石田英一郎の思想と学問』講談社学術文庫／澤田瑞穂『竜宮伝書—水神に手紙を届ける話—』〔『日本昔話研究集成第5巻 昔話と文学』名著出版〕

31. スポーツ

山口昌男 vs アイヒベルグ「スポーツ文化とポストモダン」〔『へるめす』1992年37号、岩波書店〕／バットー『文明としてのスポーツヒーローの心理学』日本経済新聞社／『現代思想』—スポーツの人類学—1986年5月、青土社／ヘニング『身体文化のイメージネーション』新評論／金山宣夫『ヒーローの文化論』角川選書／同『比較文化のおもしろさ』大修館書店／神田順『スポーツと国民性』〔亀井俊介他編『日本とアメリカ比較文化論3 生活のスタイルと価値観』南雲堂〕／トレバー・レグット『紳士道と武士道』サイマル出版会／水田和生『野球と温泉』〔『比較生活文化学序説』白馬社〕／ピーター・ミルワード『騎士道と武士道』〔『イギリス人と日本人』講談社現代新書〕／鹿毛誠一『型から見た日本の文化』見洋書房／外村直彦『剣道とフェンシング』〔『添う文化と突く文化』淡交社〕／池井優『野球と日本人』丸善ライブラリー／玉木正文・ホワイティング『ベースボールと野球道』講談社現代新書／田中徳久・吉川久美子『日本史小百科26 スポーツ』近藤出版社／野林正路・飯島達明『野球競技の構造』〔『日本語と文化・社会 ことばとシンボル』三省堂〕／トニー・メイソン『英国スポーツの文化』同文館／ブルデュー「どうしたらスポーツマンになれるか」／三橋修『政治文化としてのプロ野球』／甲野善紀『現代における武術の意味』／トンプソン『プロレスのフレーム分析』〔『身体の政治技術 叢書社会と社会学3』新評論〕／『Is』—スポーツのたくらみ—1988年41号、ポーラ文化研究所／鳴海正泰『テニス明治誌』中公新書／池井優『白球太平洋を渡る』中公新書／池井優『大リーグへの招待』平凡社カラー新書／中村敏雄『近代スポーツ批判』三省堂／同氏他『現代スポーツ論』大修館書店／平出修『白球礼讃 ベースボールよ永遠に』岩波新書／島秀之助『プロ野球審判の眼』同／大西鉄之祐『ラグビー荒ぶる魂』同／『日本スポーツ50年史』ベースボール・マガジン社／草森紳一『剣法と円』『太平の』

剣』『見立て狂い』フィルムアート社〕／桂英史『『速い男』をめぐるエクスタシーテクノロジーとしてのスポーツ』『メディア論的思考』青弓社〕／竹村民郎『中等学校野球の誕生』『笑楽の系譜』同文館〕／多木浩二『スポーツという症候群』『零の修辭学』リプロポート〕／B・モラン『高校野球』『日本文化の記号学』東信堂〕／宇沢弘文 vs C・W・ニコル『スポーツ全盛時代』『へるめす』1985年4号、岩波書店〕／清水博他『剣の理と場所の論理』『Iichiko』1995年 No37〕／細川周平『サッカー狂い』哲学書房／ベルナル・ジレ『スポーツの歴史』白水社／マゲーン Jr.『フットボールの社会史』岩波新書／『龍谷紀要』第18巻第2号／亀山佳明『スポーツと日常生活にみる滑走感覚』〔井上俊編『現代文化を学ぶ』世界思想社〕／シャド『ラグビーとイギリス人』ベースボール・マガジン社／中井正一『スポーツ気分の構造』『久野収編『美と集団の論理』中央公論社／平出隆編『日本の名随筆73 野球』作品社／大住良之『サッカーへの招待』岩波新書／★『スポーツの本全情報』紀伊國屋書店を参照／N・エリアス他『スポーツと文明化』法政大学出版局／多木浩二『スポーツを考える』ちくま新書／江刺正吾『女性スポーツの社会学』不味堂出版／亀山佳明『スポーツの社会学』世界思想社／杉本厚夫『スポーツファンの社会学』同／同『スポーツ文化の変容』同／J・リーヴァー『サッカー狂の社会学 ブラジルの社会とスポーツ』同／大島裕史『日韓キックオフ伝説』実業之日本社／『言語生活』—スポーツのことば—1982年10月号、筑摩書房／『大宅壮一文庫雑誌記事索引総目録件名編4』／日本スポーツ社会学会編『スポーツ社会学研究』法政大学出版局／細川周平『ヨハン・クライフあるいは斜線の戦略』(サッカー)『現代思想』1983年2月号、青土社〕／ロラン・バルト『レスルする世界』(レスリッグ)『神話作用』現代思潮社〕／R・ホワイティング『和をもって日本となす』角川書店／竹内宏『竹内宏のスキー経済学』実業之日本社／レールス『遊戯とスポーツ』玉川大学出版部／N・エリアス『スポーツと文明化 興奮の探求』法政大学出版局／オモニー・グルーペ『文化としてのスポーツ』ベースボールマガジン社／K・プランチャード『スポーツ人類学』大修館書店／ヘニング・アイヒベルグ『身体文化の革命』『へるめす』1992年 No37、岩波書店〕／佐山和夫『野球から見たアメリカ』丸善ライブラリー／和歌森太郎『スポーツの母胎』『遊びの文化史』ベルブックス〕／富山太佳夫『空から女が降ってくる—スポーツ文化の誕生』岩波書店／トニー・メイソン『英国スポーツの文化』同文館〕／E・ヘリゲル『弓と禅』福村出版

32. 差別の比較

山口昌男 vs 別役実『排除されたもの』『文化人類学の視角』岩波書店〕／山口昌男『学校という舞台』講談社新書／座談・安宇植・村井紀・渡部直己・浅田彰・柄谷行人『〈差別〉と文学』『批評空間』1994年2号、太田出版〕／デリック・ベル『人種主義の深い淵』朝日選書／神野清一『卑賤観の系譜』吉川弘文館／林久良『仏教にみる差別の根源』明石書店／阿部勤也『中世賤民の宇宙』筑摩書房／赤坂憲雄『排除の現象

学』洋泉社／R・ジラール『身代りの山羊』法政大学出版局／『伝統と現代』—差別—40号、伝統と現代社／森崎和江「差別と禁忌」〔『伝統と現代』18号、同〕／『日本近代思想大系22 差別の諸相』岩波書店／石井良助『女人差別と近世賤民』明石書店／赤松啓介『非常民の性風俗』明石書店／同『非常民の民俗文化』同／同『非常民の民俗境界』同／同『差別の民俗学』同／今村仁司『排除の構造』ちくま学芸文庫／野間宏・沖浦和光『日本の聖と賤 中世編』人文書院／同『日本の聖と賤 近世編』同／同『日本の聖と賤 近代編』同／同『アジアの聖と賤』同／野間宏他『差別 その根源を問う』上・下、朝日選書／原田伴彦『被差別部落の歴史』同／菊池山哉『穢多族に関する研究』三星社／岡本弥『特殊部落の解放』警醒社書店／中尾健次『江戸時代の差別観念』三一書房／内野正幸『差別的表現』有斐閣／週刊文春編『徹底追及「言葉狩り」と差別』文藝春秋／岡庭昇『メディアと差別』解放出版社／塩見鮮一郎『差別語と近代差別の解明』明石書店／藤本清一『近世賤民制と地域社会』清文堂／宮田登『原初的思考—白のフォークロア』大和書房／高橋哲哉他『現代哲学の冒険3 差別』岩波書店／筒井康隆「無人警察」〔『にぎやかな未来』角川文庫〕／盛田嘉徳他『ある被差別部落の歴史』岩波新書／網野善彦「摺衣と婆娑羅」〔『文学』1984年3月、岩波書店〕／細川涼一『死と境界の中世史』洋泉社／同『中世の身分制と非人』日本エディタースクール出版部／高橋貞樹『被差別部落—千年史』岩波文庫／横井清『光あるうちに』阿吽社／こべる編集部『部落の過去・現在そして…』阿吽社／小熊英二『単一民族神話の期限 〈日本人〉の自画像の系譜』新曜社／エドワード・W・サイード『オリエンタリズム』平凡社／竹沢泰子編『人種概念の普遍性を問う 西洋的パラダイムを超えて』人文書院／浜井祐三子『イギリスにおけるマイノリティの表象「人種」・多文化主義とメディア』三元社／金時鐘『「在日」のはざままで』平凡社／有吉佐和子『非色』角川文庫

33. 賭け事

ホイジンガー『ホモ・ルーデンス』中央公論社／カイヨワ『聖なるものの社会学』弘文堂／増川宏一『賭博』I～III、法政大学出版局／同『さいころ・すごろく』I・II、同／池上俊一『賭博・暴力・社交』講談社選書メチエ／西村清和『遊びの現象学』勁草書房／ドストエフスキー『賭博者』新潮文庫／カイヨワ『遊びと人間』岩波書店／小林章夫『賭けとイギリス人』筑摩書房／竹内久美子『賭博と国家と男と女』日本経済新聞社／尾作竹猛『賭博と掏摸の研究』新泉社／安部譲二編『日本の名随筆 別巻56 賭事』作品社／紀田順一郎『日本のギャンブル』中公文庫／谷岡一郎『ギャンブルフィーヴァー』中公新書／長島信弘『競馬の人類学』岩波新書／川北稔編『「非労働時間」の生活史』リプロポート／多田道太郎『遊びと日本人』筑摩叢書／『太陽』—競馬は人生だ—1992年11月号、平凡社／高田公理『〈遊戯化〉社会を探検する』PHP研究所／同『賭博—その技術革新・制度化・装置化』〔『現代文化における伝統と変容6 日本人と遊び』ドメス出版〕／寺山修司『競馬場で

会おう』華書房／同『馬敗れて草原あり』新書館／谷岡一郎『ツキの法則』PHP 新書／阿佐田哲也『麻雀放浪記』角川文庫／アルヴァレス『ザ・ギャンブラー』新潮社／植島啓司『競馬の快楽』講談社現代新書／山口瞳編『ゲーム的人間』新潮社／寺山修司『誰か故郷を想はざる』角川文庫／毎日新聞社編『ギャンブル雑学事典』毎日新聞社／カイヨワ『人間と聖なるもの』せりか書房／和田静郎『ルーレット』虹有社／折口信夫「ごろつきの話」〔『折口信夫全集』3、中公文庫〕／『ちくま文学の森10 賭けと人生』筑摩書房／『大宅壮一文庫雑誌記事索引総目録件名4』／長谷川昇『博徒と自由民権』平凡社ライブラリー

34. ストレンジャー (異人)

山口昌男『文化と両義性』岩波書店／『折口信夫全集』17、中公文庫／小松和彦『異人論』青土社／赤坂憲雄『異人論序説』砂子屋書房／フレイザー『金枝篇』2) 岩波文庫／網野善彦『異形の王権』平凡社／『遊行』—異人と異神—1987年2号／『季刊・自然と文化』—異人と妖怪—16号、日本ナショナルトラスト／『定本柳田國男集』1、2、4～9、12、23、25、筑摩書房／岡正雄『異人その他』言叢社／川村湊他編『訪れる神々』雄山閣／大室幹雄『滑稽—古代中国の異人たち』評論社／櫻井進『都市空間の排除と抑圧—口承文芸・文字・テクノロジー—』〔『日本文学』1994年3月、日本文学協会〕／中沢新一『悪党的思考』平凡社／小松和彦『悪霊論—民俗社会の心性』青土社／山口昌男「文化と異人」〔『仕掛けとしての文化』講談社学術文庫〕／上野千鶴子「異人・まれびと・外来王」〔『現代思想』1984年4月号、青土社〕／住谷一彦・坪井洋文・山口昌男・村武精一『異人・河童・日本人』新曜社／小松和彦「異人と村落共同体をめぐる物語」〔『ユリイカ』19(9)、青土社〕／山折哲雄・宮田登編『日本歴史民俗論集8 漂泊の民俗文化』吉川弘文館／廣川勝美『犯しと異人』人文書院／安野真『下人論 中世の異人と境界』日本エディタースクール／奥村隆『他者とする技法』日本評論社／ジュリア・クリステヴァ『外国人 我らの内なるもの』法政大学出版局／カミュ『異邦人』新潮文庫／J・V・ネウストプニー『外国人とのコミュニケーション』岩波新書

35. 綱引き

『折口信夫全集』16、中公文庫／『日本民俗文化大系』7、9、10、小学館／『季刊・自然と文化』—東アジアの綱引—42号、日本ナショナルトラスト／『定本柳田國男集』2、3、5、10、11、13、17、19、21、25、30、筑摩書房／和田正洲「暦と年中行事」〔『日本民俗学大系7』平凡社〕／郷田洋文「年中行事の地域性と社会性」〔前出同〕／松平齊光『祭り—本質と諸相』日光書院／可児弘明他「アジアの祭りと行事」〔『日本民俗文化大系9』小学館〕／池上廣正「人と神」〔『日本民俗学大系8』平凡社〕／萩原竜夫「祭り方」〔前出同〕／本田安次「沖縄の芸能」〔『日本民俗学大系9』同〕／田原久「競技・娯楽」〔前出同〕／山口麻太郎「綱曳考」〔『郷土研究』六ノ二、郷土研究社〕／川野正雄「綱引私考」〔『民俗学』四ノ十、民俗学会〕

36. 数と文化

郡司正勝『**童子考**』白水社／同『**和数考**』白水社／レヴィ＝ストロース「**範疇、元素・種・数**」〔『野性の思考』みすず書房〕／田坂昂『**数の文化史を歩く**』風涛社／北沢方邦『**数の不思議 色の謎**』廣済堂／岩田慶治「**数と魂と場所**」〔『カミの人類学』講談社文庫〕／小泉袈裟勝編『**図解 単位の歴史辞典**』柏書房／ジョルジュ・イフラール『**数字の歴史**』平凡社／矢野健太郎『**数学物語**』角川書店／ダンツィク『**科学の言葉＝数**』岩波書店／小林達雄「**縄文世界における三と五＝聖数**」〔『縄文人の世界』朝日選書〕／レビ・レオナルド・コナント『**数の起源と発達**』宝文館／安野光雅編『**日本の名随筆89 数**』作品社／マクルーハン『**メディア論**』みすず書房／伊藤一男「**数・三区分一空想と束縛一**」〔『物語とメディア』有精堂〕／大林太良 vs 佐原真「**世界のまじない**」〔『歴博』83、1997年7月〕／中沢新一『**バルセロナ、秘数3**』中央公論社／藤沢衛彦「**数と遊戯の諸関係**」〔『図説 日本民俗学全集』4、高橋書店〕／イングリット・リーデル『**絵画と象徴**』青土社／『**言語生活**』—**数とことば**—1973年11月号、筑摩書房／ルディ・ラッカー『**思考の道具箱**』工作舎／八杉佳穂「**古代マヤ人の天体観測 く数の魔力**」／梅棹忠夫編『**異文化の探求**』講談社／ブライアン・ロトマン『**ゼロの記号論**』岩波書店／風間喜代三「**数詞**」〔『ことばの身体誌—インド・ヨーロッパの原像へ—』平凡社／『月刊 アドバタイジング』—**数**—が描く不思議世界—1991年5月号、電通／レヴィ・ブリュル「**数の神秘力**」〔『未開社会の思惟』岩波文庫〕／北神徹「**数の呪術**」〔『神言 水蛭子伝説』大和書房〕／小川洋子『**博士の愛した数式**』新潮社

37. 通過儀礼としての葬式

アリエス『**死と歴史**』みすず書房／内堀基光他『**死の人類学**』弘文堂／井上章一『**霊柩車の誕生**』朝日新聞社／モラン『**人間と死**』法政大学出版局／岩田慶治他編『**生と死の人類学**』講談社／吉本隆明『**新・死の位相学**』春秋社／ハンティントン『**死の儀礼**』未来社／松山利夫『**ユーカリの森に生きる**』NHK ブックス／井之口章次「**葬儀**」〔『伝統と現代』—**儀式**—6号、伝統と現代社〕／佐藤米司『**葬送儀礼の民俗**』岩崎美術社／『**現代思想**』—**葬式のカタログ**—1984年9月、青土社／鯖田豊之『**火葬の文化**』新潮選書／大林太良『**葬制の起源**』角川書店／井之口章次編『**人生儀礼 講座日本の民俗3**』有精堂／『**葬史と宗史**』竹田聴洲著作集第七巻』国書刊行会／水藤真『**中世の葬送・墓制**』吉川弘文館／名嘉真宜勝・恵原義盛『**沖縄・奄美の葬送・墓制**』明玄書房／新谷尚紀『**日本人の葬儀**』紀伊國屋書店／同『**両墓制と他界観**』吉川弘文館／葬送研究会編『**葬送文化論**』古今書院／森謙二『**墓と葬送の社会史**』講談社現代新書／野林正路「**単一理論によるセンテンスと葬儀行動の分析**」〔『日本語と文化・社会 ことばとシンボル』三省堂〕／井上治代『**いま葬儀・お墓が変わる**』三省堂／養老孟司・齋藤磐根『**脳と墓 一人はなぜ埋葬するのか**』弘文堂／松濤弘道『**世界の葬式**』新潮社／久野昭『**葬送の倫理**』紀伊國屋書店／山下晋司「**葬制と他界観**」〔『日本の古代13 心のなかの宇宙』中央公論社〕／藤井正雄「**葬制からみた靈魂観・死後観**」

『大系 仏教と日本人9 民俗と儀礼』春秋社／須藤功『葬式 あの世への民俗』青弓社／八尋一郎『葬儀屋さん』葦書房／横山潔『葬儀屋さんが行く』KKロングセラー／丁秀山『中国の冠婚葬祭』東方書店／日野啓三編『日本の名随筆55 葬』作品社／『国立歴史民俗博物館研究報告』第68集—死者儀礼と死の観念—1996年3月／『現代のエスプリ』—葬送儀礼 古代日本人の死の思想—111、至文堂／ヴァン・ジェネップ『通過儀礼』思泉社／赤田光男『祖霊信仰と他界観』人文書院／浅香勝輔・八木澤社—『火葬場』大昭堂／矢睿『北海道の葬送・墓制』明玄書房／『葬送墓制研究集成』全5巻、名著出版／圭室諦成『葬式仏教』大法輪閣

38. 交換と市

山口昌男『文化人類学への招待』岩波新書／栗本慎一郎『経済人類学』東洋経済新報社／北見俊夫『市と行商の民俗』岩崎美術社／東靖晋『境のコスモロジー 市・渚・峠』海鳥ブックス／『柳田國男集』14、16、筑摩書房／網野善彦『無縁・公界・楽』平凡社／網野善彦・阿部謹也『中世の発見』平凡社／阿部謹也『中世の星の下で』影書房／阿部謹也・網野善彦・石井進・榊山紘一『中世の風景』上・下 中央公論社／黒田日出男『姿としぐさの中世史』平凡社／中村勝『市場の語る日本の近代』そして／マリノフスキー他『市の人類学』平凡社／和田萃「市・女・チマタ」〔『日本の古代12 女性の力』中央公論社〕／『岩波講座現代社会学17 贈与と市場の社会学』岩波書店／『現代思想』—商人—1985年10月号、青土社／白石太一郎「古代の衢をめぐって」〔『国立歴史民俗博物館研究報告』第67集〕／西郷信綱『古代の声』朝日選書／小林茂文「市と喧騒—市の変容と神々の声—」〔『古代文学講座6 人々のざわめき』勉誠社〕／同「古代の市の景観—流通外の機能を中心に—」〔『周縁の古代史』有精堂〕／前田晴人「市と文学」〔『古代文学講座3 都と村』勉誠社〕／小林茂文「古代の市の景観」〔『周縁の古代史』有精堂出版〕／都市史研究会編『年報都市研究4 市と場』山川出版社／森浩一編『日本の古代12 女性の力』中央公論社／網野善彦『中世的世界とは何だろうか』朝日選書／同『日本中世に何が起きたか 都市と宗教と「資本主義」』日本エディタースクール出版部／渡邊昭五「聖域としての市の世俗性とその機能」「イチの歌垣」〔『歌垣の研究』三弥生書店〕／北見俊夫「市と市神」〔『民間伝承』十五巻、一号、民間伝承の会〕／網野善彦『河原にできた中世の町』岩波書店／小野地健「虹と市」〔『人文研究』160号 神奈川大学〕

39. 文化の中の敗者 (平家物語)

山口昌男『敗者の精神史』岩波書店／武久堅「滅亡物語の構築—平家物語の全体像—」〔『文学』1988年3月号、岩波書店〕／『文学』—平家物語—1962年8月号、同／『文学』—平家物語—1953年2月号、同／石母田正『平家物語』岩波新書／千葉徳爾『負いくさの構造』平凡社

40. 病いと医者

山口昌男『病いの宇宙誌』人間と歴史社／スーザン・ソントグ『隠喩としての病 エイズとその隠喩』みすず書房／『岩波講座現代社会学14 病と医療の社会学』岩波書店／立川昭二『病いと人間の文化史』新潮選書／同『病気の社会史』NHK ブックス／武田徹『「隔離」という病い』講談社選書メチエ／波平恵美子『病と死の文化史』朝日選書／同『病気と治療の文化人類学』海鳴社／マルセル・サンドライユ他『病の文化史』上・下、リプロポート／『エピステーメー』—病の空間—1979年3・4月号、朝日出版社／黒田浩一郎「文化としての現代医療」『現代文化を学ぶ』世界思想社／清水哲郎『医療現場に臨む哲学』勁草書房／ラビッシュ「文明化の過程における健康概念と医療」『思想』1997年8月号、岩波書店／★『医療問題の本全情報』紀伊國屋書店を参照／永井明『ぼくが医者をやめた理由』平凡社／スーザン・ソントグ『他者の苦痛へのまなざし』みすず書房／中村雄二郎『臨床の知とは何か』岩波新書／村上靖彦『治癒の現象学』講談社選書メチエ／藤見幸雄『痛みと身体の心理学』新潮社／『現代思想』——痛むカラダ 当事者研究最前線——2011年10月号、青土社／『現代思想』——臨床現象学 精神医学・リハビリテーション・看護ケア——2011年8月号、同／柄谷行人『隠喩としての建築』講談社学術文庫

41. かぐや姫

高橋亨「ファンタジーとしてのかぐや姫」『iichiko』1987年 No 5／梅山秀幸『かぐや姫の光と影』人文書院／『國文學』—竹取物語 伊勢物語 必携—1988年5月、学燈社／『日本文学』—竹取物語—1990年5月、日本文学協会／高橋宣勝『語られざるかぐやひめ—昔話と竹取物語』大修館書店／三品彰英「かぐや姫の本質について—竹取物語素材の研究—」『三品彰英文集 第三巻 神話と文化史』平凡社／『國文學』—竹取物語 フィクションの誕生—1993年4月号、学燈社／田中元『竹取・伊勢物語の世界』吉川弘文館／和辻哲郎「お伽噺としての竹取物語」『和辻哲郎全集』第4巻、岩波書店／網谷厚子「物語における『竹取』—『うつほ物語』の現世の異郷について—」『物語 その転生と再生 新物語研究2』有精堂／柳田国男「かぐやひめ」『定本柳田国男集』31 筑摩書房／小嶋菜温子「荒らぶる光 かぐや姫から光源氏へ」『叢書史層を掘る III 王権の基層へ』新曜社／伊藤清司『かぐや姫の誕生』講談社現代新書／稲田浩二『源氏物語』の『竹取物語』観』『昔話の源流』三弥井書店／沖浦和光『竹の民俗誌』岩波新書

42. トリックスター

山口昌男「今日のトリックスター論」『知の祝祭』河出文庫／同『道化の民俗学』新潮社／同「経済にとってトリックスターとは何か」『気配の時代』筑摩書房／ヨセリ＝デ＝ヨング「トリックスターの起源」『オランダ構造人類学』せりか書房／武田正「トリックスター」『異界さがし』置賜民俗学会／ラディン・ケレーニ・ユング『トリックスター』晶文社／サンドラ・ピリトン『道化の社会史』平凡社／小川了『トリックスター 演技としての悪の構造』海鳴社／山口昌男『アフリ

カ的神話的世界』岩波新書／札幌大学文化学研究所ペリフェリア・文化学研究所編『トリックスターとしての詩人』

43. 柱

(トータルポール・大黒柱・メイポール・心の御柱・うつぼばしら・人柱)

『住まいと匠』相模書房／山片三郎『続建築徒然草』学芸出版社／吉田敦彦『日本神話のなりたち』青土社／吉田桂二『住の神話』風山社／同『民家ウォッチング』東京堂出版／『折口信夫全集』1、2、3、20、中公文庫／南方熊楠「人柱の話」『南方熊楠コレクション』11、河出書房新社／梅原猛「石柱は宇宙のシンボル」『日本の深層』集英社文庫／北神徹「天の御柱」『神言 水蛭子伝説』大和書房／浅井昇『トータルポール世界紀行』ミリオン書房／山本ひろ子「心の御柱考」他『季刊・自然と文化』一柱のダイナミズム—33号、日本ナショナルトラスト／ネリー・ナウマン「天の御柱と八尋殿についての一考察」『日本神話研究』／平林章仁「古代伝承にみる橋と柱」『龍谷大学仏教文化研究所紀要』32集、1993年／同「柱の信仰と儀礼」『橋と遊びの文化史』白水社／濱島正士「塔における柱立て棟上」『国立歴史民俗博物館研究報告』第4集／関敬吾「柱談義」『関敬吾著作集9』同朋舎／山口麻太郎「お年柱」『山口麻太郎著作集3』佼成出版社／ルルカー『シンボルとしての樹木』法政大学出版局／吉野裕子「人柱に一」『陰陽五行と童児祭祀』人文書院／保立道久「巨柱神話と『天道花』」『へるめず』1990年 No26、岩波書店／萩原秀三郎「鬼が依りつく柱」「火の柱」「青葉と葉の柱」『目でみる民俗神1 山と森の神』東京美術／北神徹「天の御柱」『神言 水蛭子伝説』大和書房／宮坂光昭『御柱祭と諏訪大社』筑摩書房／小松義男『ぼくの家は「世界遺産」』白水社

44. 杖

(ヘルメスの杖・ポセイドンの三叉杖・占杖・アルレッキーノの杖)

ウィルフォード『道化と笏杖』晶文社／『折口信夫全集』2、6、15、16、20、中公文庫／松村武雄「生杖と占杖」上・下『民俗學』第貳卷第六〜七号、民俗學會／柳田国男「榎の杖」『柳田國男全集 5』—山島民譯集(ほかーちくま文庫)／『定本柳田國男集』4、5、8、20、26、筑摩書房／網野善彦「異形・鹿杖・門前」『異形の王様』平凡社／江馬務「毬杖・卯杖・卯槌・左義長と羽木板との関係について」『江馬務著作集9』中央公論社／乗岡憲正「杖と語部と」『古代伝承文学の研究』桜楓社／赤坂憲雄「杖と境界のアルケオロジ」〔山折哲雄・宮田登編『日本歴史民俗論集8 漂泊の民俗文化』吉川弘文館〕／同『境界の発生』砂子屋書房／池内紀「ステッキをめぐる考察—あるいは遊びについて」『現代思想』1983年2月号、青土社／柳田国男「杖の成長した話」『定本柳田國男集』11、筑摩書房／山田洋子「中世大和の非人についての考察」『年報中世史研究』4号／内田忠賢『「場」をめぐる想像力—古代説話にみる『国』の景観』〔杉浦芳夫編『文学 人 地域 越境する地理学』古今書院〕

45. 入口
(敷居・玄関・
門・境・軒端)

山口昌男「記号と境界」『文化と両義性』岩波書店／『折口信夫全集』10、16、中公文庫／宮田登「境の遊女たち」『ヒメの民俗学』青土社／大河直躬『住まいの人類学』平凡社／『定本柳田國男集』4、5、24、筑摩書房／小野重朗「内神」『民俗神の系譜』法政大学出版局／野本寛一『軒端の民俗学』白水社／神野善治『人形道祖神』白水社／飯島吉晴「竈神の象徴性」『竈神と廁神』人文書院／今和次郎「玄関のこと」『今和次郎集 住居論』ドメス出版／吉野裕子「家・村・都の入口」『日本古代呪術』大和書房／赤坂憲雄「物語の境界／境界の物語」『叢書 史層を掘る 1 方法としての境界』新曜社

46. 森林

山口昌男「地球環境論のパラダイム転換」『自然と文明の想像力』鳥社／梅原猛他『ブナ帯文化』新思索社／『is』一樹—第15号、ポーラ文化研究所／柳田國男「塚と森の話」『柳田國男全集 15』ちくま文庫／西口親雄『ブナの森を楽しむ』岩波新書／同『森林保護から生態系保護へ』新思索社／同『森林への招待』八坂書房／神山恵三『森の不思議』岩波新書／平野秀樹『森林理想郷を求めて』中公新書／宇江敏勝『森のめぐみ』岩波新書／四手井綱英『森林』法政大学出版局／佐々木宏明『照葉樹林への道』NHK ブックス／只木良也『森と人間』NHK ブックス／筒井迪夫『森林文化への道』朝日選書／フレイザー『金枝篇』1) 2) 岩波文庫／『南方熊楠コレクション』V、河出書房新社／『季刊 自然と文化』一樹—1982夏季号、日本ナショナルトラスト／谷川健一編『森の神の民俗誌 日本民俗文化資料集成21』三一書房／宇江敏勝『山の木のひとりごと』新宿書房／『世界の伝説3 山森』ぎょうせい／上山春平編『照葉樹林文化』中公新書／上山春平他『続・照葉樹林文化』同／斉藤正彦『森と文化』東京大学出版会／市川健夫・斉藤功『日本の森林文化』日本放送出版協会／内山節『森にかよう道一知床から屋久島まで』新潮選書／工藤父母道『母なる森・ブナ』思索社／中尾佐助『現代文明ふたつの源流』朝日選書／今西錦司編『日本の名随筆 21 森』作品社／市川健夫『森と木のある生活』白水社／根深誠『ブナの山々』同／大野喜久夫『北海道の森林』北海道開発文庫／本多勝一編『知床を考えよ』晩聲社／★『植物・植物学の本全情報』紀伊國屋書店を参照／八木健三『北の自然を守る—知床・千歳川そして幌延—』北海道大学図書刊行会／ジョン・パーリン『森と文明』晶文社／梅原猛・伊東俊太郎監修『森の文明 循環の思想』講談社／安田喜憲『森の日本文化 縄文から未来へ』新思索社／ジャック・ウェストビー『森と人間の歴史』築地書館／只木良也『ことわざの生態学 森・人・環境考』丸善ブックス／市川健夫『ブナ帯と日本人』講談社現代新書／萩原秀三郎『目でみる民俗神 1 山と森の神』東京美術／『森林の百科事典』丸善／ソロー『ウォールデン 森の生活』岩波文庫

47. 鳥

アラン・ブロー『鷺の紋章学』平凡社／早川孝太郎「鳥の話」他
 『早川孝太郎全集 第四巻』未来社／吉野裕子「カラス祭り」『山の神』人文書院／『折口信夫全集』1、2、8、13、14、15、16、17、中公文庫／今道友信「日本の幻想」2) 『日本の美学』18、ペリカン社／『Is』一鳥—13号、ポーラ文化研究所／ハドソン『鳥と人間』講談社／草野心平編『日本の名随筆 2 鳥』作品社／池田真次郎『鳥の博物誌』法政大学出版局／平林章仁『鹿と鳥の文化史』白水社／新谷尚紀「人と鳥のフォークロア」『ケガレから神へ』木耳社／篠原徹『自然と民俗 心意のなかの動植物』日本エディタースクール出版部／長沼武『山の動物民俗12』ほおずき書館／『別冊歴史読本 鳥の日本史』1989年11月特別号、新人物往来社／上村くこ『白鳥のシンボリズム—神話・芸術・エロスからのメッセージ』御茶の水書房／『鳥・とり事典』大修館書店／飯野徹雄『フクロウの文化誌—イメージの変貌』中央公論社／柳田国男『野鳥雑記』八坂書房／尾崎暢映『鳥の物語』『古代文学講座 2 自然と技術』勉誠社／中川裕「動物神の自叙—アイヌの神謡—」前出同／谷川健一『神・人間・動物』平凡社／ルルカー『鷺と蛇 シンボルとしての動物』法政大学出版局／島田能里子「和歌に詠まれた『鳥』とその変遷」〔『立教大学日本文学』1979年42号〕／★『動物・動物学の本全情報』紀伊國屋書店を参照／吉成直樹「鳥霊信仰と幼児葬法」〔『俗信のコスモロジー』白水社〕／杉田英明『動物誌と動物譚 東洋文庫ふしぎの国11』平凡社／スティープン・フェルド『鳥になった少年』平凡社／ロイ・ウィリス『人間と動物』紀伊國屋書店／渡邊昭五「他界より来たる鳥」〔『歌垣の研究』三弥生書店〕／五味文彦『絵巻で読む中世』ちくま新書／中西進「ユーラシア大陸の伝説—鳥と蛙」(カセット) 大修館書店／山本七平編『漢字文化を考える』大修館書店／中西悟堂『愛鳥自伝』平凡社ライブラリー

48. 猿

山口昌男他座談会『『河童駒引考』を読む』〔『無限大』1985年No68、日本アイ・ピー・エム株式会社〕／大貫恵美子『日本文化と猿』平凡社／石上七鞘『猿の伝承』〔『水の伝承』新公論社〕／石田英一郎『新版河童駒引考』東京大学出版会／柳田国男「猿廻しの話」〔『柳田国男全集 5』ちくま文庫〕／廣瀬鎮『猿』法政大学出版局／西田利貞他編『サル文化誌』平凡社／立花隆『サル学の現在』平凡社／★『動物・動物学の本全情報』紀伊國屋書店を参照／マーカタンテ『空想動物園』法政大学出版局／泉鏡花「化鳥」〔『泉鏡花集成』3、ちくま文庫〕／秦恒平『猿の遠景 絵とせとら文化論』紅書房／飯田道夫『「猿」よもやま話—サルと日本の民話』評言社／同『見ザル聞カザル言ワザル—世界三猿源流考』三省堂／『折口信夫全集』1、2、7、中公文庫／村崎義正『猿まわし上下ゆき』筑摩書房／杉田英明編『動物誌と動物譚 東洋文庫ふしぎの国11』平凡社／『世界の伝説 4 動物・植物』ぎょうせい／五味文彦『絵巻で読む中世』ちくま新書／山口昌男『河童のコスモロジー 石田英一郎の思想と学問』講談社学術文庫

49. 十二支

南方熊楠『十二支考』東洋文庫／吉野裕子『十二支』人文書院／大場磐雄『十二支と十二獣』北隆館／諸橋轡次『十二支伝説』大修館書店／大場磐雄『十二支のはなし』ニューサイエンス社／林義勝『十二支伝説』PHP／吉野裕子『山の神』人文書院／奥本大三郎『干支セトラ、etc.』岩波新書／竹内照夫「十支十二支の起源と伝承」『歴史読本臨時増刊 万有こよみ百科』1973年、新人物往来社／西岡秀雄『東・西・南・北・右・左』北隆館／吉野裕子『陰陽五行と童児祭祀』人文書院／山中襄太『語源十二支物語』大修館書店／柳宗玄『十二支のかたち』同時代ライブラリー、岩波書店

50. 地震・津波 (なまず・災害 の文化史)

アウエハント『鯨絵』せりか書房／笹本正治『中世の災害予兆』吉川弘文館／大林太良『神話の話』講談社学術文庫／力武常次『地震予知』中公新書／尾池和夫『中国の地震・日本の地震』東方書店／『太陽』一大地震—1977年2月号、平凡社／『寺田寅彦全集』4、17、岩波書店／武者金吉『日本地震史料』毎日新聞社／稲見悦治『都市の自然災害』古今書院／江馬務『災異の種類と沿革』『江馬務著作集6』中央公論社／★『地球自然環境の本来情報』紀伊國屋書店を参照／宮田登監修『鯨絵 震災と日本文化』里文出版／力武常次監修『近代世界の災害』国会資料編纂会／トム・メラム他『荒ぶる地球自然災害のすべて』岩波書店／高木仁三郎『いま自然をどう見るか』白水社／パール・S・バック『つなみ』径書房／北原糸子『地震の社会学 安政大地震と民衆』講談社学術文庫

51. 楽器 (弦・管・ パーカッション 等)

樋口寛『三絃の誘惑 近代日本精神史覚え書』人文書院／藤井知昭「音の文化とシンボル—民族の楽器は語る」『iis』—音楽—第9号、ポーラ文化研究所／上尾信也『歴史としての音』柏書房／川田順造『聲』筑摩書房／吉川周平「太鼓打ちの動作と舞踊」『身ぶりと音楽』東京書籍／安藤由典『楽器の音色を探る』中公新書／西原稔『ピアノ誕生 楽器の向こうに「近代」が見える』講談社メチエ／皆川達夫『大図説 世界の楽器』小学館／田辺尚雄『日本の楽器』柏書房／今福龍太「音と身体のエスノセオリーへ」『言語生活』1987年12月号、筑摩書房／アラン・P・メリアム『音楽人類学』音楽之友社／郡司すみ『世界楽器入門』朝日選書／小泉文夫『日本の音』平凡社／国立歴史民俗博物館編『日本楽器の源流』第一書房／櫻井哲男・山口修編『音の今昔』弘文堂／赤井励『オルガンの文化史』青弓社／奥田恵二『フルートの歴史』音楽之友社／木戸敏郎編『日本音楽叢書 1 雅楽』音楽之友社／同編『日本音楽叢書 2 伶楽』同／金子量重編『日本とアジア—生活と造形 4 音楽と芸能』学生社／本田安次編『講座日本の民俗 8 芸能』有精堂／山西龍郎『音のアルカディア』ありな書房／T・E・カーハート『パリ左岸のピアノ工房』新潮社／斎藤信哉『ピアノはなぜ黒いのか』幻冬舎新書

52. 雨・嵐と文化

(どのように取り上げられているか)

高谷重夫『雨の神—信仰と伝説』岩崎美術社／『定本柳田國男集』2、3、4～6、8、11、21～23、25、31、筑摩書房／中村汀女編『日本の名隨筆43 雨』作品社／『折口信夫全集』2、6、9、13、16、29、中公文庫／宮田登「雨乞いと供饗」「天神＝雷神の祭祀」〔『ケガレの民俗誌』人文書院〕／野村純一編『日本伝説大系』3、みすず書房／フレイザー「降雨の呪術的調節」〔『金枝篇』1〕岩波文庫／関敬吾「山と雨乞」〔『関敬吾著作集9』同朋舎〕／★『地球・自然環境の本全情報』紀伊國屋書店を参照／『言語生活』—雨の記号学—1987年6月号、筑摩書房／小松和彦「雨乞いと生贄」〔『説話の宇宙』人文書院〕／小林享「雨の風景との対話」〔『移ろいの風景論』鹿島出版／吉野正敏『風の世界』東京大学出版会／『搜神記』〈雨神〉平凡社／『本田安次著作集12』錦正社／大谷東平『台風の話』岩波新書／玉蟲敏子『夏秋草園屏風』平凡社

53. 線・糸・紐

(あやとり・結界・注連縄・からくり等)

山口昌男 vs 赤瀬川原平「都市生活にみる『結び』考」〔『季刊 まち・すまい』1997No56、住宅・都市整備公団〕／額田巖『ひも』法政大学出版局／同『結び』同／エリアーデ「〈縛める神〉と結び目のシンボリズム」〔『エリアーデ著作集』4、せりか書房〕／道明新兵衛『ひも』學生社／『日本の美術23 結髪と髪飾』至文堂／額田巖『日本の結び』講談社／藤原覚一『日本の結び』築地書館／若尾五雄「あやとり」〔『河童の荒魂』堺屋図書〕／額田巖『結び目の謎』中公新書／垂水稔『結界の構造』名著出版／丸山久子「童戯」(あやとり)〔『日本民俗学大系9』平凡社〕／秋道智彌『なわばりの文化史』小学館／宇野邦一「美術・線の闘争」〔『意味の果てへの旅』青土社〕／カンディンスキー『パウハウス叢書9 点と線から面へ』中央公論美術出版／結城孫三郎『糸あやつり』青蛙房／萩原秀三郎『目でみる民俗神3 境と辻の神』東京美術／額田巖『結び方の研究』創元社／同『結びの文化』東洋経済新報社／樋口清之『帯の歴史』装具きもの学院／藤原覚一『結び方手帖』築地書館／江馬務『有職故実』日本文学社／渋沢敬三『日本常民生活絵引』角川書店／イングリット・リーデル「線」〔『絵画と象徴』青土社〕／鶴岡真弓「組紐のシンボリズム」他〔『ケルト／装飾的思考』筑摩書房〕／北神徹『神言水蛭子伝説』大和書房

54. 台所・竈

(かまどの女神へスティア)

ハリスン『台所の社会史』法政大学出版局／古島敏雄『台所用具の近代史』有斐閣／松山利夫『精霊たちのメッセージ』角川選書／筑土鈴寛『復古と叙事詩』青磁社／飯島吉晴『竈神と廁神』人文書院／大藤時彦「家の神としての火の神」〔『民間伝承』10巻六号、民間伝承の会〕／和歌森太郎「カマド神信仰」〔『和歌森太郎著作集10』弘文堂〕／坪井洋文「竈神考」〔『日本民俗学』二巻四号、日本民俗学会〕／同「家の神の重層性」〔『日本民俗学』三巻三号、同〕／宮田登「田の神とカマド神」〔『女の霊力と家の神』人文書院〕／黄川田啓子「竈神信仰の研究」〔『東北民俗』五輯、1970年、東北民俗の会〕／『is』一火—21号、ポーラ文化研究

所／山口昌伴『**台所戦後史**』〔『上野千鶴子編『色と欲』小学館〕／『**定本柳田國男集**』1～3、5、6、8、14、15、21、24、27、筑摩書房／モース『**日本その日その日**』1～3、平凡社／小菅桂子『**にっぽん台所文化史**』雄山閣／小野重朗『**民俗神の系譜**』法政大学出版局／伊藤清司『**日本と中国の龍神伝承**』〔『昔話 伝説の系譜』第一書房〕／バシュラール『**火の精神分析**』せりか書房／折口信夫『**盆踊りの話**』〔『折口信夫全集第二巻』中公文庫〕／永尾龍造『**支那の民俗**』磯部甲陽堂／坪井洋文『**日本民俗学大系**』第六巻、平凡社／柳田國男『**火の昔**』〔『定本柳田國男集』21、筑摩書房〕／大林太良編著『**日本古代文化の探究・火**』社会思想社／フレーザー『**火の起源の神話**』角川文庫／郷田洋文『**いろいろと火**』〔『日本民俗学大系6』平凡社〕／山口麻太郎『**イロリとクド**』〔『山口麻太郎著作集3』佼成出版社〕／『**火の生活文化 火の博物館「火」**』KBI 選書／萩原秀三郎『**目でみる民俗神2 豊穰の神と家の神**』東京美術／飯田道夫『**庚申信仰**』人文書院／森隆男『**住居空間の祭祀と儀礼**』岩田書院／内田賢作『**埼玉のカマド荒神信仰について**』〔『日本民俗学』135号、1981年、日本民俗学会〕／安野真幸『**太郎冠者 異人としての下人**』〔『下人論』日本エディタースクール〕／岡正雄『**産屋・他屋・寝屋・喪屋・竈屋・隠居屋など**』〔『日本民俗学大系 月報第二号』平凡社〕／内藤正敏『**ヒョウトク譚のへりに隠された金属伝承**』〔『日本昔話研究集成 第1巻 昔話研究の課題』名著出版〕／鈴木正彦『**歳の夜の訪客**』〔『日本昔話研究集成 第3巻 昔話と民俗』同〕／★昔話の「ヒョウトク」参照／大河直躬『**住まいの人類学**』平凡社／『**パウハウス・テイスト パウハウス・キッチン**』美術出版社／幸田文『**台所のおと**』講談社文庫／吉本ばなな『**キッチン**』新潮文庫

55. 外国語とは何か

鈴木孝夫『**日本語と外国語**』岩波書店／現代新書編集部『**外国語をどう学ぶか**』講談社現代新書／佐々木瑞枝『**外国語としての日本語**』講談社現代新書／澤田昭夫『**外国語の習い方**』講談社学術文庫／岩崎友吉『**外国語を学ぶたのしみ**』玉川選書／財団邦人語学教育研究所編『**随筆 日本人と外国語**』開拓社／杉本つとむ『**外国人と日本語 日本語講座6**』桜楓社／辻邦生編『**外国語 ABZ**』新潮社／千野栄一『**外国語上達法**』岩波新書／鈴木孝夫『**武器としての言葉一茶の間の国際情報学**』新潮選書／カトー・ロンブ『**わたしの外国語学習法**』創樹社／小林道憲『**異国への憧憬—日本古代の外国観**』〔『日本及日本人』1993年1月号〕／ジュリア・クリステヴァ『**外国人 我らの内なるもの**』法政大学出版局／服部品子『**なんで英語やねん**』山と溪谷社／『**言語生活—外国語の学び方—**1985年4月号、筑摩書房／『**言語生活—外国語教育—**1973年1月号、同／田辺保『**なぜ外国語を学ぶか**』講談社現代新書／杉本つとむ『**外国語と日本語**』桜楓社／『**言語**』2001・2別冊『**言語の20世紀101人**』大修館書店／ジャック・デリダ『**他者の言語**』法政大学出版局／野崎敏『**谷崎潤一郎と異国の言語**』人文書院／田中克彦『**ことばと国家**』岩波新書／ルイ＝ジャン・カルヴェ『**社会言語学**』白水社

56. 留 学

磯田光一『『遊民』的知識人の水脈』〔『磯田光一著作集5』小沢書店／安藤彦太郎『中国語と近代日本』岩波新書／藤井省三『東京外語支那語部』朝日選書／加藤行立『現代留学事情』丸善ライブラリー／坂元編『日本の名隨筆 別巻31』作品社／小草『日本留学1000日 北京っ娘の東京体験』東方書店／黄尊三『清国人日本留学日記一九〇五～一九一二』東方書店／桑木務『大戦下の欧州留學生生活』中公新書／青柳清孝『黒人大学留学記』中公新書／阿部良雄『若いヨーロッパ パリ留学記』中公文庫／大庭みな子『津田梅子』朝日新聞社／小泉タエ『留學生 小泉信三の手紙』文藝春秋／渡部昇一『ドイツ留学』上・下、講談社現代新書／岩男寿美『留學生が見た日本』サイマル出版会／『100人のカナダ留学記』文理閣／浅野慎一『日本で学ぶアジア系外国人』大学教育出版／各務行雄『アメリカ留学に夢を求めて』近代文藝社／川島芳文『アメリカ留学体験記』近代文芸社／松本淳編『留学 日本の教育のすきまを埋める』エイデル研究所／権藤与志夫編『世界の留学—現状と課題』東信堂／栖原暁『アジア人留學生の壁』NHK ブックス／石附実『近代日本の海外留学』中公文庫／渡辺実『近代日本海外留學生史』講談社／手塚晃編『明治期海外渡航者総覧』柏書房／★『月刊 留学と会話』バックナンバー図書館に所蔵／園田英弘『留学 文明摂取のための運動』〔『現代日本文化における伝統と変容7 日本人にとっての外国』ドメス出版〕／大橋敏子他『外国人留學生とのコミュニケーション・ハンドブックトラブルから学ぶ異文化理解』アルク／張偉雄『文人外交官の明治日本』柏書房／藤原正彦『若き数学者のアメリカ』新潮文庫／犬養道子『お嬢さん放浪記』中公文庫／小澤征爾『ボクの音楽家武者修行』新潮文庫

57. 茶と喫茶 (コーヒー・紅茶)

村井康彦『茶の文化史』岩波新書／角山二郎『茶の世界史』中公新書／小野二郎『紅茶を受皿で』〔『紅茶を受皿で』晶文社〕／竹内実『中国喫茶詩話』淡交社／守屋毅『喫茶の文明史』淡交社／中村羊一郎『茶の民俗学』名著出版／ピーター・ミルワード『お茶の巡礼』河出書房新社／『コーヒーという文化』柴田書店／狐野利久『喫茶・飲酒の習慣と文化』〔『比較文化入門』北星堂書店〕／ピーター・ミルワード『お茶とミサ』PHP／和田義雄『札幌喫茶昭和史』沖積舎／角山榮『辛さの文化甘さの文化』同文館／同『茶の世界史』中公新書／矢沢利彦『東西お茶交流考』東方書店／同『東のお茶 西のお茶』研文出版／吉村亨他『日本の茶 歴史と文化』淡交社／相松義男『紅茶と日本茶』恒文社／荒勝淑子『茶の考古学』日本エディタースクール／木津治『茶の季節』近代文芸社／左能典代『茶と語る』NTT 出版／橋本実『茶の起源を探る』淡交社／小川後楽『茶の文化史』文一総合出版／周達生『お茶の文化史』松崎芳郎編著『年表 茶の世界史』八坂書房／守屋毅『お茶のきた道』日本放送協会出版／同編『茶の文化 その総合的研究』淡交社／桑田忠親『茶道の歴史』講談社学術文庫／『紅茶百年史』全日本紅茶振興会／谷本陽蔵『お茶のある暮らし』草思社／同『中国茶の魅力』柴田書店／岡倉

天心『茶の本』角川文庫／波多野公介『おいしいお茶がのみたい』PHP
 ／菊盛英夫『文学カフェ』中公新書／小川八重子『暮しの茶』平凡社／
 同監修『くつろぎの茶』朝日新聞社／松下智『中国の茶』河原書店／同
 『日本名茶紀行』雄山閣／同『茶の博物誌』東京書房社／同『日本茶の
 伝来』淡交社／出口保夫『英国紅茶への招待』PHP／同『英国紅茶の
 話』東京書籍／小国伊太郎編著『お茶は最高の健康食』ごま書房／村松
 敬一郎他編著『そろそろお茶の時間』ぎょうせい／同編『茶の科学』朝
 倉書店／滝口明子『英国紅茶論争』講談社選書メチエ／小野二郎『ペー
 コン・エッグの背景』晶文社／春山行夫『紅茶の文化史』平凡社／小林
 章夫『コーヒー・ハウス』駸々堂出版株式会社／臼井隆一郎『コーヒー
 が廻り世界史が廻る—近代市民社会の黒い血液』中公新書／ジョオン・
 サークス『消費社会の誕生—近世イギリスの新企業』東京大学出版会／
 エリアス『文明化の過程—ヨーロッパ上流階級の風俗の変遷』全二冊、
 法政大学出版局／ヴォルフガング・シヴェルプシュ『楽園・味覚・習性
 —嗜好品の歴史』法政大学出版局／荒木安正『紅茶の世界』柴田書店／
 ハトリックス『コーヒーとコーヒーハウス』同文館／土屋守『紅茶の
 ある風景 暮らしてみたイギリス紅茶の世界』曜曜社出版／『珈琲紀行』
 全日本コーヒー協会／『日本コーヒー史』上・下、全日本コーヒー商工
 組合連合会／磯淵猛『紅茶の国 紅茶の旅』筑摩書房／角山榮『紅茶の
 文化史』『緑茶の社会史』『辛さの文化 甘さの文化』同文館／岡倉寛
 三『茶の本』岩波文庫／山田芳裕『へうげもの』モーニング KC／飯田
 美樹『café から時代は創られる』いなほ書房

58. 時間と空間

『日本の美学』—空間—第16号、ペリかん社／ヴァラニヤック『ヨー
 ロッパの庶民生活と伝承』白水社／植田重雄『ヨーロッパ歳時記』岩波
 書店／福井憲彦『時間と習俗の社会史』新曜社／プーレ『人間の時間の
 研究』筑摩書房／真木悠介『時間の比較社会学』岩波書店／『日本の美
 学』—時間—第19号、ペリかん社／カーン『時間の文化史』法政大学出
 版局／ヴィットロフ『時間 その性質』同／戸井田道三『能—神と乞食
 の芸術』せりか書房／『エリアーデ著作集』3、4、せりか書房／ジャッ
 ク・アタリ『時間の歴史』原書房／『is』—時—17号、ポラ文化研究
 所／加藤秀俊『日常性の社会学』角川文庫／『エピステーメ』—空間
 —1977年7、朝日出版／海野弘『空間の神話学』造形社／矢部眞和編
 『生活時間の社会学 社会の時間・個人の時間』東京大学出版会／『岩波
 講座 現代社会学6 時間と空間の社会学』岩波書店／エリアス『時
 間について』法政大学出版局／宮田登『日和見 日本王権論』平凡社
 ／『現代思想』—空間の記号学—1982年7月号、青土社／『言語生活』—
 時間—1985年6月号、筑摩書房／藤井治彦編『空間と英米文学』英宝
 堂／中楚肇『空間と人間』中公新書／木村敏『時間と自己』同／マイケ
 ル・オマリ『時計と人間 アメリカの時間の歴史』晶文社／E・リー
 チ『人類学再考』新思索社／石森秀三『サタワル島における空間の象徴
 性』〔松原正毅編『人類学とは何か』日本放送出版協会〕／イングリッ

59. 暦

ト・リーデル「画面あるいは空間の象徴性」〔『絵画と象徴』青土社〕/
『現代詩手帖』—空間の異相—1975年7月号、思潮社／本川達雄『ゾウ
の時間 ネズミの時間』中公新書／ハイデガー『存在と時間』岩波文庫
／ポール・リクール『時間と物語』新曜社／ミヒャエル・エンデ『モモ』
岩波書店

永田久『年中行事を「科学」する』日本経済新聞社／同『暦と占いの科
学』新潮社／内田正男『暦の語る日本の歴史』そしえて／岡田敏郎『明
治改暦』大修館書店／渡邊敏夫『暦入門』雄山閣／ホグベン「暦の出
現」〔『コミュニケーションの歴史』岩波文庫〕／大島健彦編『年中行事
講座日本の民俗6』有精堂／宮田登他『日本民俗文化大系9 暦と祭
事』小学館／佐藤次高「暦」〔『シリーズ世界史への問い2』岩波書店〕
／広瀬季雄『日本史小百科5 暦』近藤出版社／和歌森太郎「年中行事
の歴史的位相」〔『和歌森太郎著作集12』弘文堂〕／西角井正慶『年中行
事辞典』東京堂出版／『定本柳田國男集』2、5、6、7、10、12、13、
15、筑摩書房／宮田登「生活の中の暦」〔『日和見 日本王権論』平凡
社〕／井本英一『習俗の始原をたずねて』法政大学出版局／宮田登他監
修『仏教行事歳時記』1月、12月、全12巻、第一法規／『歴史読本臨時
増刊「万有こよみ百科」』新人物往来社／中牧弘允「暦」〔井上忠司編
『現代日本文化における伝統と変容4 都市のフォークロア』ドメス出
版〕／渡邊敏夫『日本の暦』雄山閣／岡田芳朗『日本の暦』新人物往来
社／小島麗逸他編『「こよみ」と「くらし」—第三世界の労働リズム—』
アジア経済研究所／大東文化大学東洋研究所編『年代学（天文・暦・陰
陽道）の研究』時研究会編『時の科学』コロナ社／藤沢衛彦「暦と迷
信」〔『図説日本民俗学全集3』高橋書店〕／柳田国男「年中行事覚書」
〔『定本柳田國男集』13、筑摩書房〕／和田正洲「暦と年中行事」〔『日本
民俗学大系7』平凡社〕／折口信夫「年中行事」〔『折口信夫全集』15、
中公文庫〕／『言語』—暦の記号学—1991年12月号、大修館書店／寺井
美奈子「改暦の後遺症を按ずる—太陽暦採用百二十年目にあたって—」
〔『日本及日本人』1993年陽春号〕／廣末保「暦の外に出た遊び」〔『現代
思想』1983年2月号、青土社〕／グースヤン『フランスの祭りと暦』原
書房／チャールズ・カイトリー『イギリス歳時記』大修館書店／中村喬
『中国の年中行事』平凡社／同『続中国の年中行事』同／『言語生活』—
暦—1977年1月号、筑摩書房／大島良行『アメリカン・ホリデー そ
の神話と現実』東書選書／井上忠司他『現代家庭の年中行事』講談社現
代新書／石井研士『都市の年中行事—変容する日本人の心性』春秋社／
端信行「暦と自然観」〔『民族学の旅』講談社〕／八杉佳穂「古代マヤ人
の時空認識」〔松原正毅編『人類学とは何か』日本放送出版協会〕／網野
善彦ほか『春夏秋冬』福音館書店

60. 橋
(境界・結界)

平林章仁『橋と遊びの文化史』白水社／保田與重郎『日本の橋』〔『保田與重郎全集 第4巻』講談社〕／上田篤『橋と日本人』岩波新書／小山田了三『橋』法政大学出版局／山本宏『橋の歴史』森北出版／宮田登『橋と境』〔『妖怪の民俗学』岩波書店〕／『季刊 自然と文化』—橋—1984年夏季号、日本ナショナルトラスト／服部幸雄「橋・道」〔『is』27号、ポーラ文化研究所〕／網野善彦『天の橋・地の橋』福音館／高橋昌明『境界の祭祀』〔『日本の社会史』2 岩波書店〕／赤坂憲雄『境界の発生』砂子屋書房／E・T・ホール『文化としての時間』TBSブリタニカ／『太陽』—橋の旅—1985年10月号、平凡社／小林忠雄「七つの橋渡り—現代女性の不安—」〔『歴博』83、1997年7月〕／飯島吉晴「橋の民俗」〔『竈神と廁神』人文書院〕／安藤徹「橋・峠・川・水」〔『物語とメディア 新 物語研究 1』有精堂〕／柳田国男「橋の名と伝説」〔『定本柳田国男集』5、筑摩書房〕／折口信夫「熟語構成から観察した語源論の断簡」〔『折口信夫全集』19、中公文庫〕／ベルト・ハインリッヒ編著『橋の文化史』鹿島出版会／山本宏『橋の歴史』森北出版／かたっぱし委員会編『橋ものがたり ここは渡りたい名橋100選と橋の文化史』交通公社／土田作治郎・渡辺直之『日本の石橋』平凡社カラー選書／上田篤『橋と日本人』岩波新書／川田忠樹『歴史のなかの橋とロマン』技報堂／吉成直樹『『橋を買う』民俗』〔『俗信のコスモロジー』白水社〕／小林豊『橋の旅』白山書院／小野重朗「産育儀礼にみる試練と命名」〔『日本民俗学』1982年、130、日本民俗学会〕／泉鏡花「化鳥」〔『泉鏡花集成』3、ちくま文庫〕／赤坂憲雄「物語の境界／境界の物語」〔『叢書史層を揺る 1 方法としての境界』新曜社〕／『神道集』〈橋姫〉東洋文庫／平凡社／萩原秀三郎『目でみる民俗神 3 境と辻の神』東京美術／北見俊夫『川の文化』日本書籍／網野善彦「閑渡津泊、橋と勳進上人」〔『増補無縁・公界・楽』平凡社選書〕／垂水稔「結界について」(Ⅰ)(Ⅱ)〔『国立民族学博物館研究報告』1978年3巻1号、1978年3巻4号〕／「『縛める神』と結び目のシンボリズム」〔『エリアーデ著作集 第4巻』せりか書房〕

61. 船と港

『季刊 自然と文化』—和船—1982年春季号、日本ナショナルトラスト／北見俊夫『日本海上交通史の研究』法政大学出版局／村瀬正章『近世海運史の研究』同／杉山宏『日本古代海運史の研究』同／須藤利一編『船』同／宮本常一編著『海の道 旅の民俗と歴史10』八坂書房／渡辺信夫『海からの文化 みちのく海運史』河出書房新社／新井洋一『港からの発想』新潮選書／社団法人日本港湾協会『日本港湾史』／荒巻孚『北の港町小樽』古今書院／『海と列島文化』全10巻、別巻1、小学館／『図説人物 海の日本史 1』毎日新聞社／『日本全国みなと事典1995』未来社／福永光司『馬』の文化と「船」の文化』人文書院／和辻春樹『船』明治書院／土井全二郎『客船がゆく 海・人・船のものがたり』情報センター出版局／『一億人の昭和史』毎日新聞社／住田正一『海運盛衰記』創元社／北海道新聞社編『はこだて歴史散歩』同社刊／石垣福

雄『新函館物語』中西出版／竹内良夫『港をつくる』新潮選書／大林太良編『日本古代文化の探究 船』社会思想社／網野善彦他監修『よみがえる中世 8 埋もれた港町・草戸千軒・鞆・尾道』平凡社／網野善彦・森浩一『馬・船・常民 東西交流の日本列島』河合出版／網野善彦他『海と列島文化 1 日本海と北国文化』小学館／網野善彦『海と列島の中世』日本エディタースクール出版部／網野善彦・石井進他『沈黙の中世』平凡社／宮本常一『日本民衆史 3 海に生きる人びと』未来社／網野善彦『日本社会再考—海民と列島文化—』小学館

62. 流行と ファッション

山口昌男「記号と境界」〔『文化と両義性』岩波書店〕／同「流行論」〔『週刊本』朝日出版社〕／『岩波講座現代社会学21 デザイン・モード・ファッション』岩波書店／『現代のエスプリ』—流行—No171、至文社／鷺田清一『モードの迷宮』中央公論社／同『ファッションという装置』河合文化研究所／同『夢のもつれ』北宋社／『着る 平凡社カルチャー today』平凡社／マックス・フォン・ペーン『モードの生活文化』1・2、PARCO 出版／小山栄三『ファッションの社会学』時事通信社／春山行夫『おしゃれの文化史』1～3、平凡社／アンダーソンブラック『ファッションの歴史』上・下、PARCO 出版／北山晴一『おしゃれと権力』三省堂／ピセッキー『モードのイタリア史 流行・社会・文化』平凡社／川北稔『洒落者たちのイギリス史』平凡社／『ファッションと風俗の七十年』婦人画報社／『アクロス』—混迷するファッション—1992年7、PARCO／海野弘『流行の神話—ファッション・映画・デザイン』フィルムアート社／多田道太郎編『流行の社会学』世界思想社／森英恵『ファッション』岩波新書／山田登世子『モードの帝国』筑摩書房／同「誘惑ゲーム」〔『零の修辞学』リプロポート〕／河原和枝「『私らしさ』の神話—ファッションという制度—」〔『現代文化を学ぶ』世界思想社〕／R・バルト『モードの体系』みすず書房／ボードリヤール『消費社会の神話と構造』紀伊國屋書店／S・ユエン他『欲望と消費—トレンドはいかに形づくられるか』晶文社／S・ユエン『浪費の政治学』晶文社／A・リュリー『衣服の記号論』文化出版局／G・マクラッケン『文化と消費とシンボルと』勁草書房／千村典生『戦後ファッションストーリー』平凡社／能澤慧子『モードの社会史—西洋近代服の誕生と展開』有斐閣／ジラル『欲望の現象学』法政大学出版局／千村典生『ファッションの歴史』平凡社／ブリュノ・デュ・ロゼル『20世紀モード史』同／能澤慧子『二十世紀モード』講談社選書メチエ

63. 庭

高山宏『庭の綺想学』ありな書房／鈴木誠「『庭』の造園デザイン」〔『日本の美学』第14号、ベリかん社〕／ヴォルフガンク・タイヒェルト『象徴としての庭園 ユートピアの文化史』青土社／進士五十八「日本庭園の空間」〔『日本の美学』第16号、ベリかん社〕／鈴木博之「六義園八十八境の生成 庭園における〈型〉の意味」〔『日本の美学』第13号、同〕／佐野みどり「花の庭」〔『日本の美学』第3号、同〕／森繭『日

本史小百科19 庭園』近藤出版社/『is』—庭園—26号、ポーラ文化研究所/野田正彰『庭園に死す』春秋社/岡崎文彬『造園の歴史』同朋舎出版/同『日本の古庭園』同/野村勘治『旅に出たら寄ってみたい庭30』小学館/明石散人・佐々木幹雄『宇宙の庭 龍安寺石庭の謎』講談社/円地文子編『日本の名随筆 6 庭』作品社/白幡洋三郎『大名庭園 江戸の饗宴』講談社選書メチエ/『太陽』—名庭紀行—1977年10月号、平凡社/『太陽』—日本の庭—1976年8月号、同/『太陽』—新・名庭の旅—1989年10月号、同/『太陽』—庭園の美学—1984年8月号、同/『太陽 庭と家シリーズ』I~IV、同/リハチョフ『庭園の詩学』平凡社/西村保五郎『北海道の庭園』ミニコミセンター/吉川需『古庭園のみかた 美と構成』第一法規株式会社/丸山宏『近代日本公園史の研究』思文閣/木戸敏郎「日本文化再発見試論」〔『日本及日本人』1992年12月~〕/横山正『数寄屋逍遙 茶室と庭の古典案内』彰国社/網野善彦「庭」〔『中世的世界とは何だろうか』朝日選書〕/渡辺一民「園芸と築城術 林達夫『作庭園』をめぐって」〔『文学』1986年11月号、1987年1月号、岩波書店〕/川崎寿彦『楽園と庭』中公新書/同『マーヴェルの庭』研究社出版/林達夫『私の植物蒐集—『実際園芸』主幹に答えて—』「庭園の不在地主」「作庭記」「植物園」「国立植物園」〔『林達夫著作集4』平凡社〕/M・フランシス、R・T・ヘスター Jr 編『庭の意味論』鹿島出版会/チャールズ・W・ムーア他『庭園の詩学』同/大橋治三・齊藤忠一『ヴィジュアル 日本庭園鑑賞事典』東京堂出版/齊藤忠一『日本庭園集成』全6巻、小学館/同『探訪日本の庭』全12巻、小学館/齊藤忠一他『日本の庭園美』全10巻、集英社/齊藤忠一『名園を歩く』全8巻、毎日新聞社/カレル・チャベック『園芸家の一年』恒文社

64. 「捨てる」
 (コミュニケーションからコミュニケーション)

中村雄二郎「プリコラージュ—蒐めるということ」〔中村雄二郎・山口昌男『知の旅への誘い』岩波新書〕/唐木順三『無常』筑摩書房/ロジェ・アンリ・ゲラン『トイレの文化史』ちくま文庫/ノーマン・ブ라운「排泄的ヴジョン」〔『エロスとタナトス』竹内書店〕/金塚貞文『人工身体論 あるいは糞をひらない身体の考察』青弓社/南方熊楠「廁神」〔『南方熊楠コレクション』II、河出書房新社〕/若尾五雄「廁」「廁鬼」〔『河童の荒魂』堺屋図書〕/桐生操『やんごとなき姫君たちのトイレ』TOTO 出版/小西捷監修『スカラベの見たもの』同/ヴァン・デア・リン『トイレからの発想』講談社/古賀正憲『便所の中で』徳間コミュニケーションズ/山路茂則『トイレ考現学』啓文社/李家正文『廁(加波夜)考』六文館/同『廁風土記』東和社/同『古代廁攷』相模書房/同『泰西中国トイレット文化考』雪華社/同『糞尿と生活文化』泰流社/高野六郎『便所の進化』厚生閣/西岡秀雄『トイレットペーパーの文化誌』論創社/楠本正康『こやしと便所の生活史』ドメス出版/日本トイレ協会編『トイレの研究』地域交流出版/TOTO 文化情報センター編『わたしのトイレ』泰流社/『伝統と現代』—世捨て—16号、伝統と現代社/佐藤正英「隠遁者とその周辺」〔『大系 仏教

と日本人6 遊行と漂泊』春秋社〕／同『**隠遁の思想**』東京大学出版会／目崎徳衛『**漂泊**』角川選書／同『**出家遁世**』中央公論社／櫻井あかね『**「ごみ」から見えてくる現代社会ニッポン**』〔上野千鶴子編『色と欲』小学館〕／寄本勝美『**ごみリサイクル**』岩波新書／鳴海邦碩『**穢なき生活—除去・分離装置系としての都市**』〔井上忠司編『現代日本文化における伝統と変容4 都市のフォークロア』ドメス出版〕／高橋康夫『**洛中洛外—環境文化の中世史**』平凡社／湯浅起男『**環境と文明**』新評論／磯川金次『**糞尿の民俗学**』批評社／吉野裕子『**廁神**』〔『神々の誕生』岩波書店同時代ライブラリー〕／萩原秀三郎『目でみる民俗神2 豊穰の神と家の神』東京美術／梅谷繁樹『**捨聖・一遍上人**』講談社新書

65. 「盗む」

泥棒研究会編著『**盗みの文化誌**』青弓社／吉成直樹『**盗む論理・盗まれる論理—作物盗みの俗信を中心に**』〔『俗信のコスモロジー』白水社〕／笠松宏至『**盗み**』〔網野善彦他『中世の罪と罰』東京大学出版会／高桑守史『**儀礼的盗みとムラ**』〔『日本民俗文化体系8 村と村人—共同体の生活と儀礼』小学館〕／ホブズボーム『**匪賊の社会史**』みすず書房／野村雅一『**ヨーロッパの伝承—シチリアの山賊伝承—**』〔『民話と伝承』朝日新聞社〕／スタンダール『**カストロの尼**』岩波文庫／網野善彦『**「悪」の諸相 緊張する社会**』〔『海と列島の中世』日本エディタースクール出版部〕／野尻抱影『**大泥棒紳士館**』工作舎／神山圭介『**盗賊の風景**』出帆社

66. 異類婚譚

ジャン・マルカル『**メリュジーヌ**』大修館書店／クードレット『**メリュジーヌ物語**』青土社〔ジャック・ルゴフ他『母と開拓者としてのメリュジーヌ』付〕／クードレット『**妖精メリュジーヌ**』現代教養文庫／ベッツィ・ハーン『**美女と野獣**』新曜社／雨宮裕子『**異類婚姻譚の構造**』〔『日本昔話研究集成1 昔話研究の課題』名著出版〕／関敬吾『**日本昔話大成**』2、角川書店／『関敬吾著作集6 比較研究序説』同朋舎出版／ドンデ『**人魚伝説**』創元社／高橋康雄『**美女と野獣—異類婚譚の起源**』〔『札幌大学総合論叢』1999年第7号〕

67. 教具・教室・ 子供の文化 の比較 (聞き書きする とよい)

河内紀『**ベニアの学校**』晶文社／上笙一郎『**日本子育て物語**』筑摩書房／唐澤富太郎『**図説明治百年の児童史**』上・下、講談社／佐藤秀夫『**ノートや鉛筆が学校を変えた**』平凡社／『別冊太陽 子どもの昭和史』平凡社

68. 温泉

クルーティエ『**水と温泉の文化史**』三省堂／板坂耀子編『**江戸温泉紀行**』平凡社／大石真人編『**全国温泉辞典**』東京堂出版／池内紀編著『**西洋温泉事情**』鹿島出版会／落合敏郎『**温泉による町おこし村おこし**』リーベル出版／山下清『**伊香保へ行って温泉に入ろう**』〔『ちくま哲学の森7 驚くところ』筑摩書房〕／田山花袋『**温泉めぐり(抄)**』〔『モダン都市文学5 観光と乗物』平凡社〕／山村順次著『**世界の温泉地—**

温泉リゾートの発達と現状』大明堂／神崎宣武・山本鉦太郎編『温泉大百科 1～3』ぎょうせい／『五十年のあゆみ』皆生温泉観光／神崎宣武・山本鉦太郎監修『湯けむりの里』ぎょうせい／オットー・グラウス著『ヨーロッパの温泉保養地』集文社／津本信博編著『近世紀行日記文学集成』早稲田大学出版部／八岩まどか著『温泉と日本人』青弓社／川島武宣著『温泉権』岩波書店／白水晴雄著『温泉のはなし』技法堂出版／クリチェック著『世界温泉文化史』国文社／日本温泉協会温泉研究会編『温泉必携』日本温泉協会／大島良雄・矢野良一共著『温泉療養の指針』日本温泉協会／山村順次著『日本の温泉地—その発達・現状とあり方』日本温泉協会／大石真人著『温泉の文化誌』丸善／八岩まどか『温泉と共同湯』青弓社／種村季弘・池内紀『温泉百話』ちくま文庫／山口瞳『温泉へ行こう』新潮文庫／田山花袋『日本温泉めぐり』角川ランティエ叢書

69. 坐る・歩く

山折哲雄『「坐」の文化論』講談社学術文庫／田村憲美『中世肖像画における「坐」の問題』〔黒田日出男編『肖像画を読む』角川書店〕／野中涼『歩く文化 座る文化—比較文学論—』早稲田大学出版部／葛綿正一『平安期文学における身体の主題—足と沓をめぐる—』〔『日本文学』1994年6月、日本文学協会〕／飯田善國『歩く』〔『へるめす』1987年第10号、岩波書店〕／安居香山『正坐の文化』五月書房／熊倉功夫『茶の湯—わび茶の心とかたち』教育社

70. 地獄・極楽

『源信 日本の名著 4』中央公論社／『国文学解釈と鑑賞—地獄・極楽の案内—1990年8月号、至文堂』／『餓鬼草紙・地獄草紙・病草紙・九相詩絵巻』中央公論社／網野善彦・大西廣・佐竹昭広『人生の階段』福音館書店

*タコ壺から脱出を！ 記号学・言語学・コミュニケーション論・文化人類学・マルキシズム・精神分析学を駆使して考察すること。

監修 山口昌男
作成 高橋康雄

1999年1月 作成
2000年1月 増補
2012年9月 増補改訂